



航空自衛隊

Japan Air Self-Defense Force

航空自衛隊の概要 2025

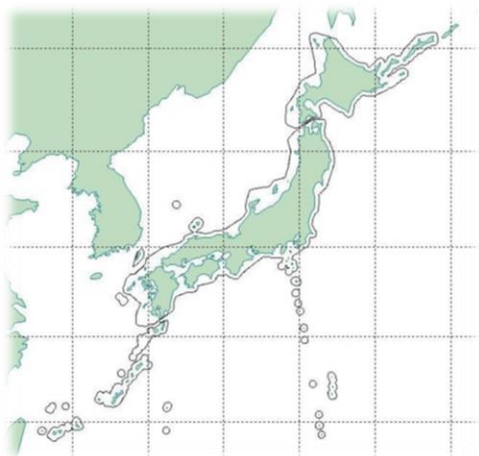


航空幕僚監部



航空自衛隊 ～空と宇宙を守る唯一の組織～

航空自衛隊が「守る」領域



領土・領海・**領空**



宇宙・サイバー・電磁波

航空防衛力を構成する主な部隊



戦闘機部隊



航空警戒管制部隊



地対空誘導弾部隊



宇宙領域専門部隊



航空輸送部隊



航空救難部隊

日米同盟



各国との防衛協力・交流



隊員の活躍





内 容

- I 我が国を取り巻く安全保障環境
- II 航空防衛力の意義、航空自衛隊の任務等
- III 防衛力の抜本的強化へ向けた取組
- IV トピックス

I

我が国を取り巻く安全保障環境

- 1 現在の安全保障環境の特徴
- 2 我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況
- 3 我が国周辺の安全保障環境



1 現在の安全保障環境の特徴

- 力による一方的な現状変更やその試みは、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序に対する深刻な挑戦であり、国際社会は戦後最大の試練の時を迎え、新たな危機の時代に突入しつつある
- 科学技術の急速な進展が安全保障のあり方を根本的に変化させ、各国はいわゆるゲーム・チェンジャーとなりうる先端技術の開発を行い、従来の軍隊の構造や戦い方に根本的な変化が生じている
- サイバー領域などにおけるリスクの深刻化、偽情報の拡散を含む情報戦の展開、気候変動などのグローバルな安全保障上の課題も存在
- サプライチェーンの脆弱性、重要インフラへの脅威の増大、先端技術をめぐる主導権争いなど、安全保障の対象が経済分野にまで拡大



出典：ロシア大統領府
ウクライナ東部および南部4州の「編入」式典



出典：ロシア国防省公式Youtubeチャンネル
ロシア 極超音速滑空兵器アヴァンガード



出典：朝鮮中央通信
北朝鮮の国家航空宇宙技術総局平壤総合管制所



出典：ロシア国防省公式Youtubeチャンネル
ロシア 海上発射型の極超音速巡航ミサイル ツィルコン



出典：NATO HP
NATOサイバー演習の様子



1 現在の安全保障環境の特徴

中露の示威活動

ロシアは活発な活動を継続



共同航行



共同飛行

新型の装備を極東にも配備



ステレグシチーⅢ級
フリゲート
2020年、太平洋艦隊
に配備



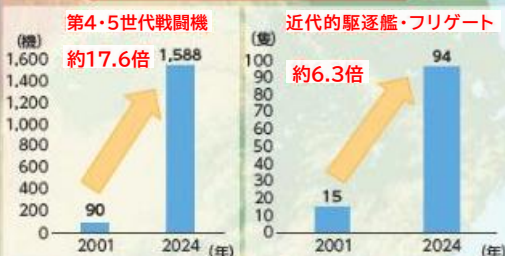
地对艦ミサイルシステム
「バステオン」
2022年、千島列島の
幌筵島に新たに配備

北朝鮮の核・ミサイル開発



・06年に初めて核実験強行。以降、計6回の核実験
・長射程化や変則軌道での飛翔など、ミサイル技術を高度化

中国による軍事力の 広範かつ急速な変化



北方領土問題

中国による活発な
日本海への進出

竹島をめぐる
領土問題

朝鮮半島を
めぐる問題

中国による
東シナ海における
力による一方的な
現状変更の試み／
活動の急速な
拡大・活発化

台湾をめぐる
問題

中国による活発な
太平洋への進出

南シナ海をめぐる
問題

我が国周辺では、軍事力の強化・軍事活動の
活発化の傾向が顕著

「インド太平洋地域は、安全保障上の課題 が多い地域」

- 核兵器を含む大規模な軍事力を有し、普遍的価値やそれに基づく政治・経済体制を共有しない国家や地域が複数存在
- 歴史的な経緯を背景とする外交関係などが複雑に絡み合う地域
- 東シナ海、南シナ海などにおける、力による一方的な現状変更の試み、海賊、テロ、大量破壊兵器の拡散、自然災害などの様々な種類と烈度の脅威や課題が存在



沖縄・宮古島間を通過した中国軍の偵察／攻撃型無人機
(2024年11月)



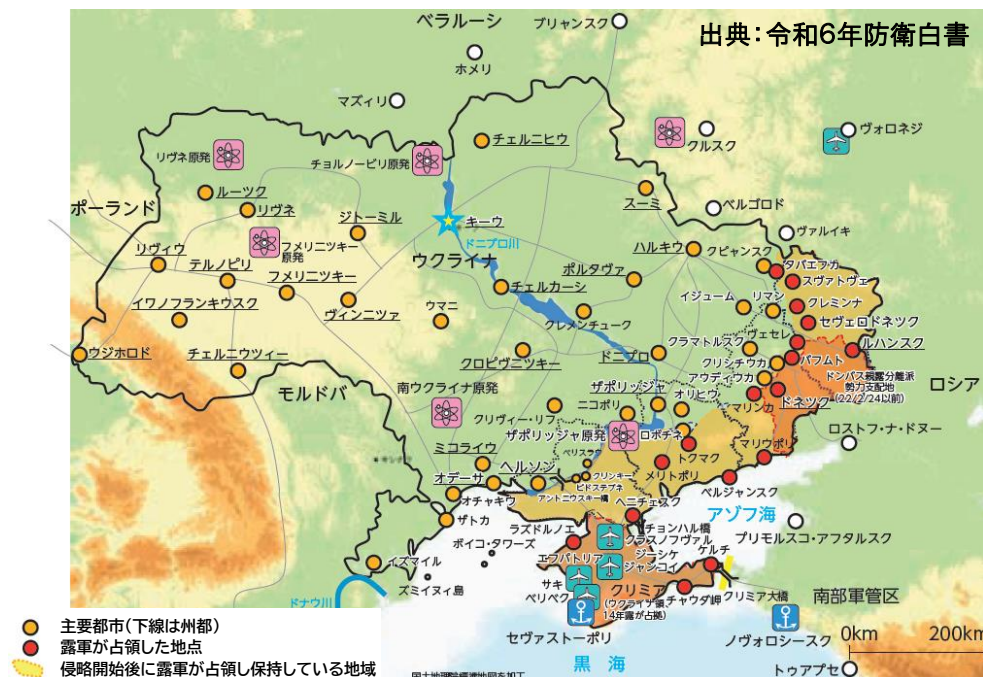
1 現在の安全保障環境の特徴

ロシアによるウクライナ侵略

- 2022年2月24日、ロシアはウクライナに対する全面的な侵略を開始
- 武力の行使を禁ずる国際連合憲章を含む**国際法の深刻な違反**
- 力による一方的な現状変更は、**国際秩序の根幹を揺るがす行為**
- このような侵略を容認すれば、アジアを含む他の地域においても力による一方的な現状変更が認められるとの誤った含意を与えかねない



出典：ウクライナ政府Facebook



イスラエル・パレスチナ情勢

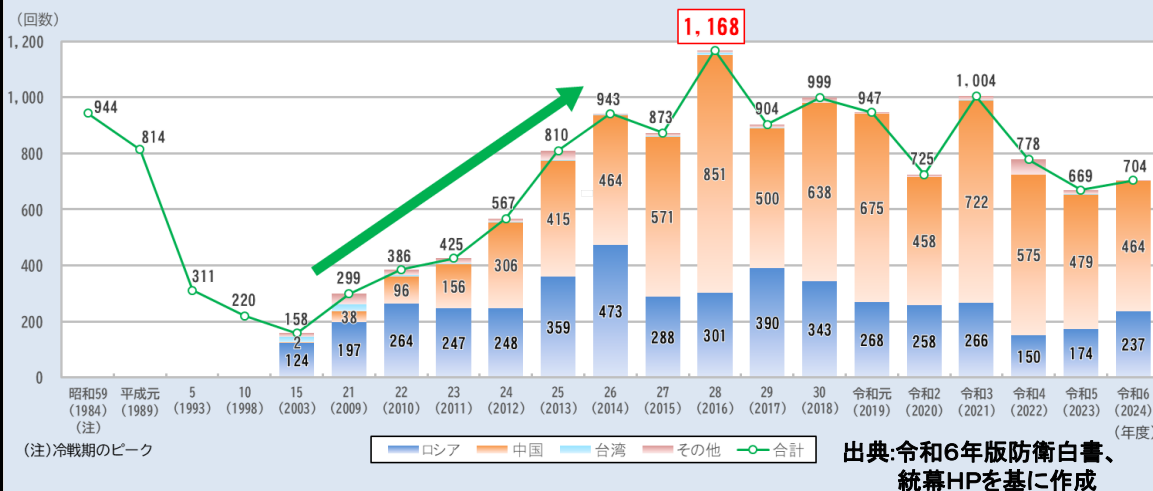
- 2023年10月7日、ハマスなどのパレスチナ武装勢力が、ガザ地区からイスラエルに対し、数千発のロケット弾を発射。これを受け、イスラエル軍は同日、ガザ地区への空爆を開始
- レバノンの親イラン武装勢力であるヒズボラなどによるイスラエルへの攻撃が頻発
- 2025年1月15日、人質解放と停戦に関する合意が成立



2 我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況:「空」緊急発進

- 2024年度の緊急発進回数は**704回**
- 2013年度以降、年度全体の緊急発進回数は概ね700回を超える高い水準で推移

冷戦期以降の緊急発進実施回数とその内訳



中国機

戦闘機

J-16



(2024年11月30日撮影)

情報収集機

Y-9



(2024年11月30日撮影)

無人機

TB-001



(2024年11月3日撮影)

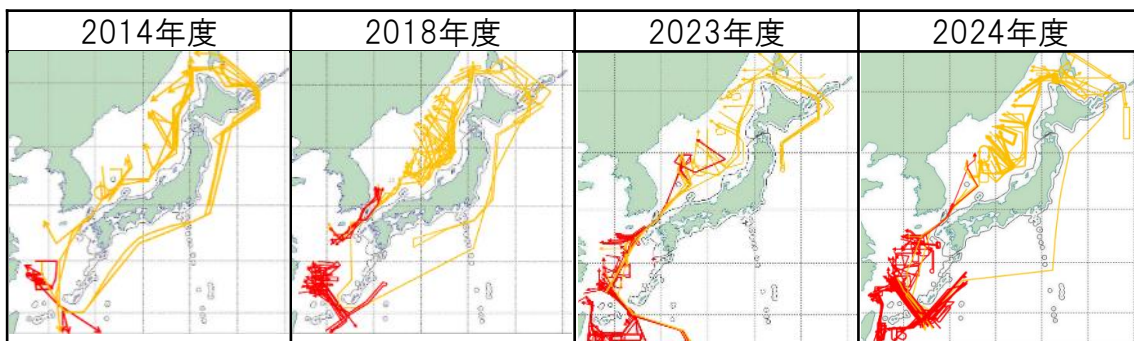
爆撃機

H-6



(2024年11月29日撮影)

中国機とロシア機の活動範囲、活動量の推移



→ : 中国機

→ : ロシア機

出典: 統合幕僚監部HP

ロシア機

戦闘機

Su-35



(2024年11月29日撮影)

情報収集機

IL-20



(2024年11月21日撮影)

爆撃機等

Tu-95

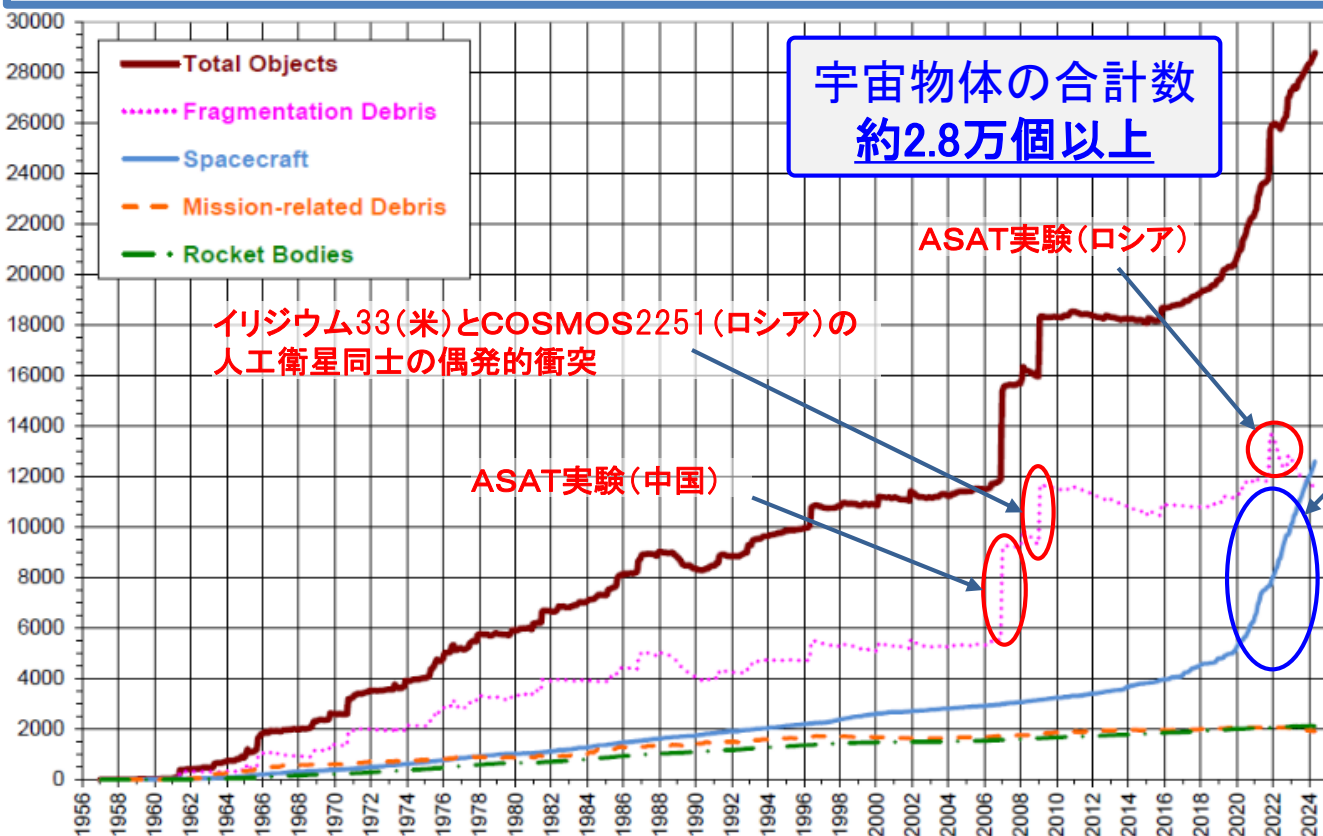


(2024年11月30日撮影)



2 我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況:「宇宙」利用の拡大

- 通信、測位、気象等の宇宙システムは、**経済・社会活動において重要なインフラ**であるとともに、陸上、海上、航空、統合のすべての作戦において、**指揮統制や装備品等の能力の最大発揮に不可欠**
- 主要国は、C4ISR機能の強化などを目的とし、情報収集衛星、早期警戒衛星、測位衛星、通信衛星など、各種衛星の能力向上や打上げに注力
- 一方、他国の宇宙利用を妨げる**対衛星兵器(ASAT)**も開発され、中国とロシアの自国衛星を標的とした破壊実験によりスペースデブリが多数発生
- さらに、宇宙システムへのサイバー攻撃など、**宇宙空間の安定的利用に対する脅威が増大**
- 各国は、宇宙アセットへの脅威を監視する**宇宙領域把握(SDA)**に注力



民間事業者による多数の小型衛星の打上げ(衛星コンステレーション)

- ・C4ISR: Command, Control, Communication, Computer, Intelligence, Surveillance and Reconnaissance
- ・ASAT (Anti-Satellite Weapon): 対衛星兵器
- ・SDA (Space Domain Awareness): 宇宙領域把握
- ・衛星コンステレーション: 多数の衛星を軌道上に配置し、一体的に運用するシステム

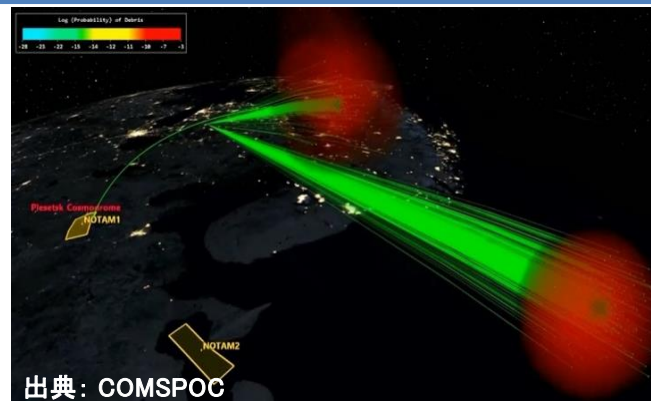
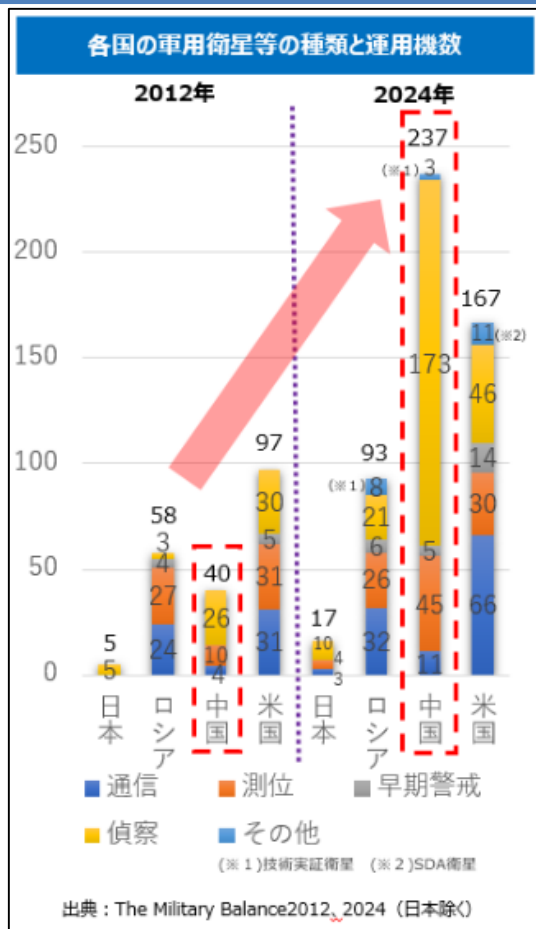
コンステレーションは英語で「星座」の意味

(出典) NASA: Orbital Debris Quarterly News Volume 28, Issue 3



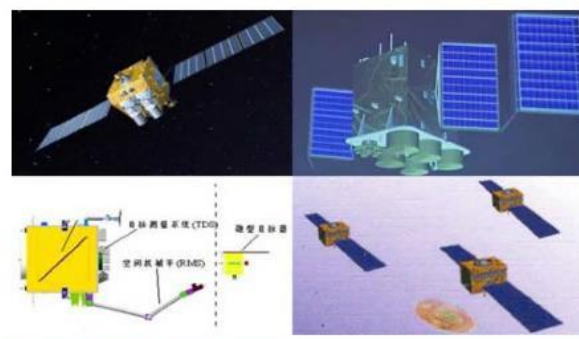
2 我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況:「宇宙」脅威の増大

- 中国は近年、衛星打ち上げの増加が顕著であり、2012年からの12年間で約6倍に急増
- 中露によるASAT実験のほか、GPSに対する妨害や宇宙システムへのサイバー攻撃など、**宇宙領域における脅威が増大**
- 北朝鮮は2023年5月、8月、11月、2024年5月に衛星打ち上げを目的とする弾道ミサイル技術を使用した発射を強行、2023年11月の発射では、北朝鮮が発射した物体が地球を周回していることを確認



ロシアによるASAT実験

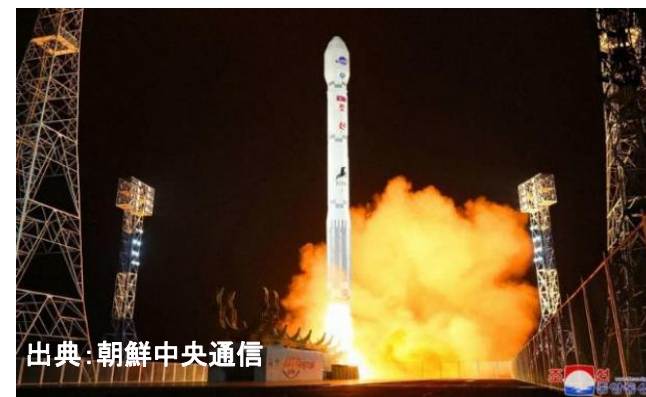
附图 1: 2013 年前三季度公司小卫星产品发射交付概览



资料来源: 上海证券研究所 出典: GLOBAL COUNTER SPACE
中国のロボットアームを搭載した衛星の図



ウクライナにおけるGPS妨害発生状況



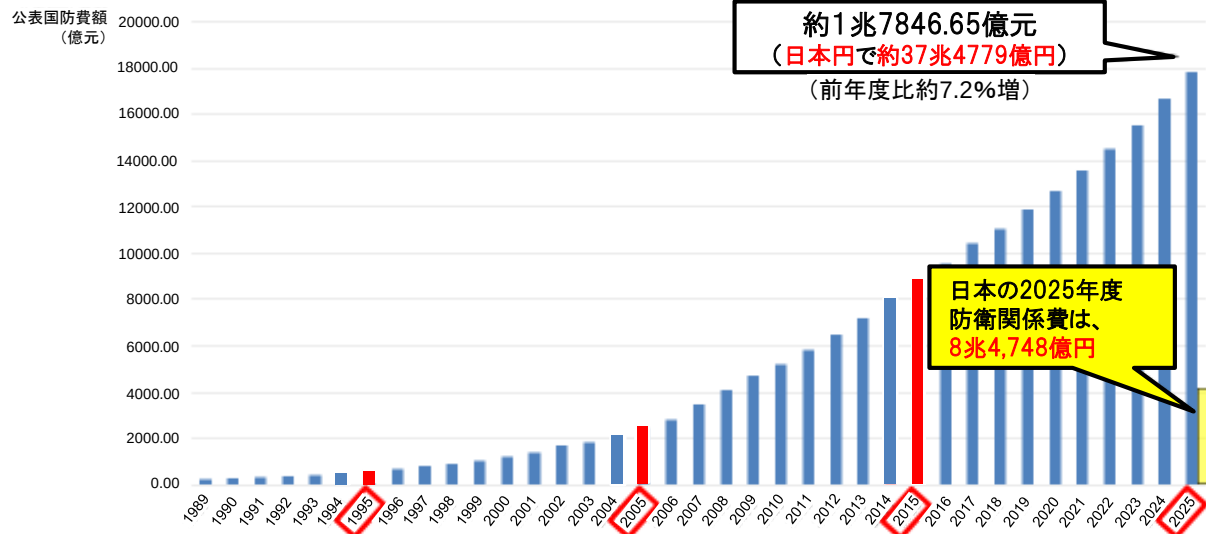
「軍事偵察衛星」発射時に北朝鮮が公表した画像



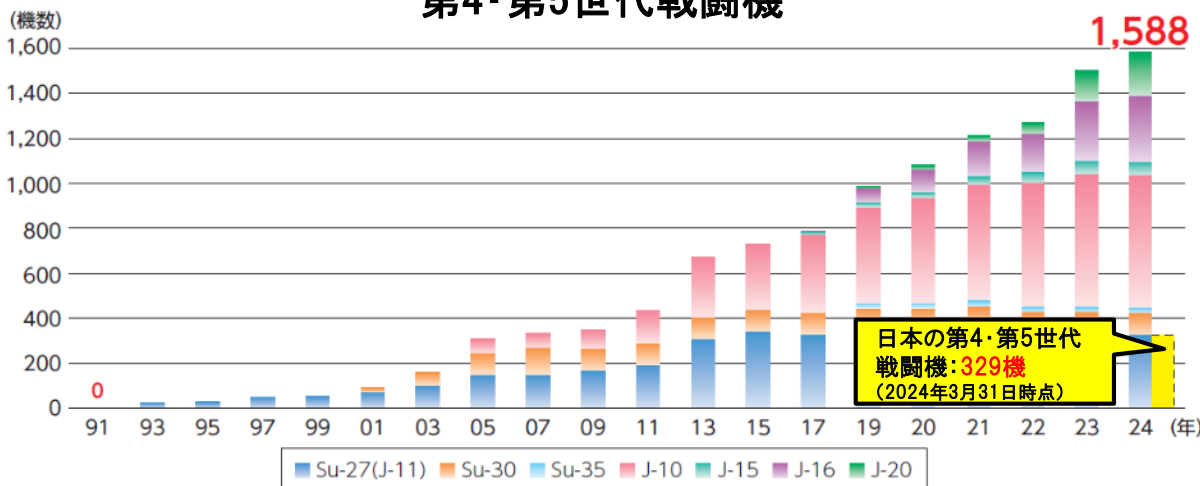
3 我が国周辺の安全保障環境：中国

- 中国の公表国防予算は、速いペースで増加（30年間で約28倍、10年間で約2倍）
- 継続的に高い水準で国防費を増加させ、軍事力の質・量を広範かつ急速に強化

中国の公表国防予算の推移



第4・第5世代戦闘機



DF-41大陸間弾道ミサイル
最大射程：11,200km



DF-17準中距離弾道ミサイル
最大射程2,000km



北京を中心とする弾道ミサイルの射程(イメージ)



J-20戦闘機



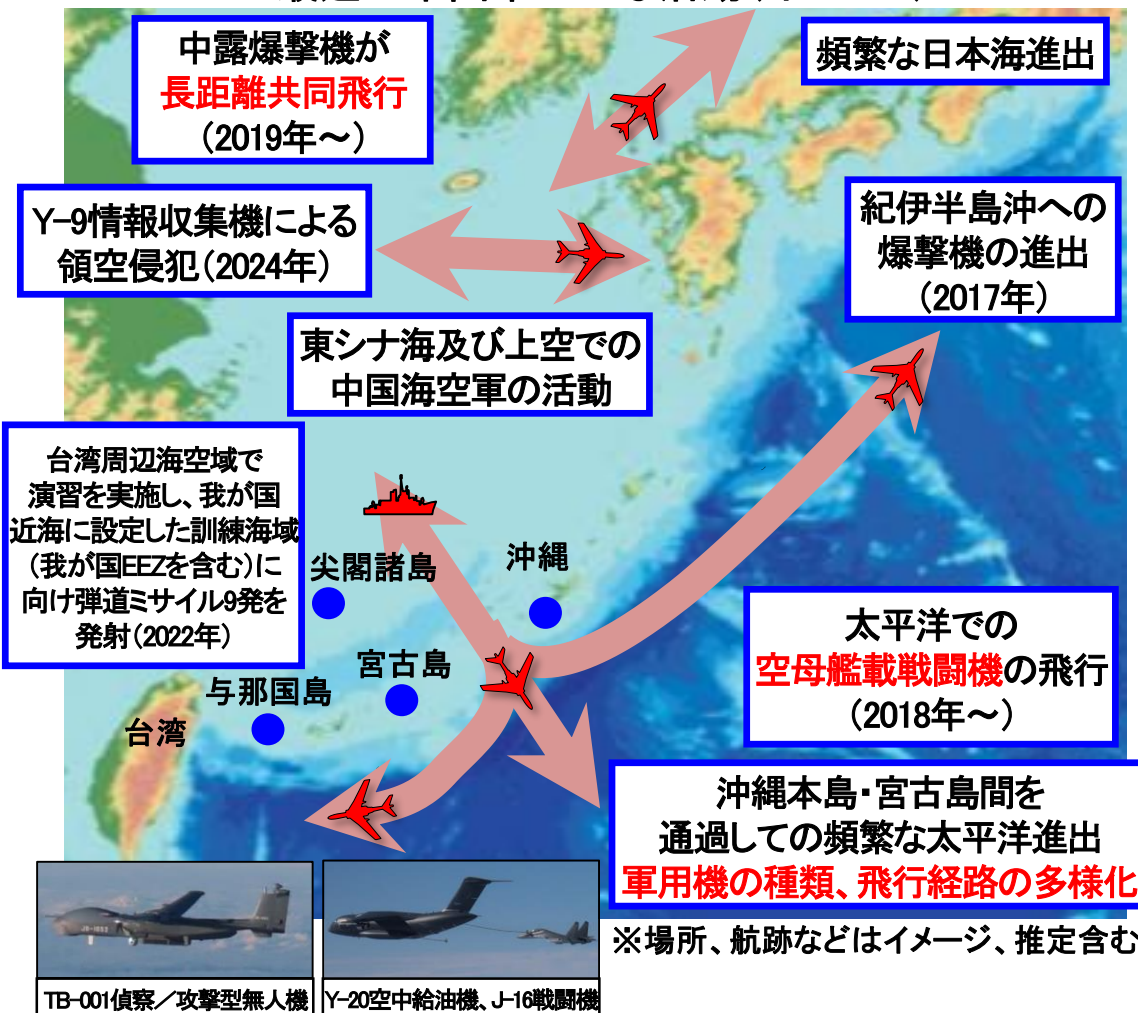
H-6爆撃機



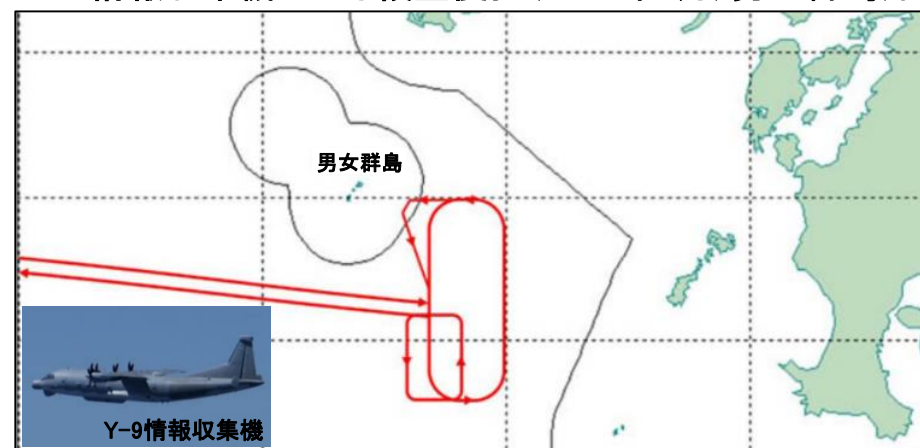
3 我が国周辺の安全保障環境：中国

- 中国軍は、我が国周辺海空域での活動を拡大・活発化。行動を一方向的にエスカレートさせる事案も
- 活動内容は、実践的な統合作戦遂行能力の向上の動きをみせるなど、高度化
- 台湾に対する軍事的圧力、南シナ海での軍事拠点化、ロシアとの連携強化
- 軍事動向等は、**我が国と国際社会の深刻な懸念事項**であり、**これまでにない最大の戦略的な挑戦**

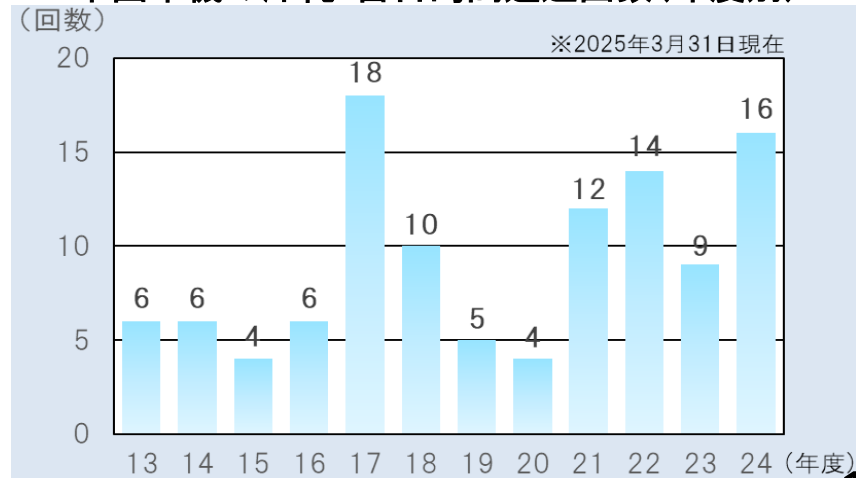
最近の中国軍の主な活動（イメージ）



Y-9情報収集機による領空侵犯(2024年8月)男女群島沖



中国軍機の沖縄・宮古島間通過回数(年度別)

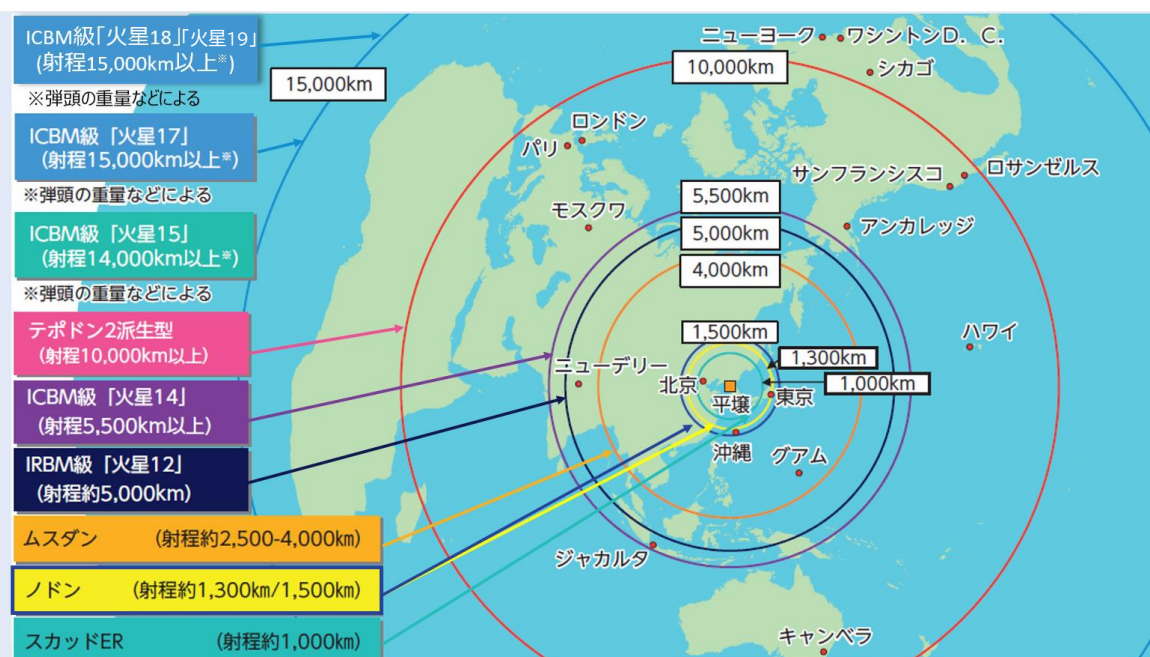




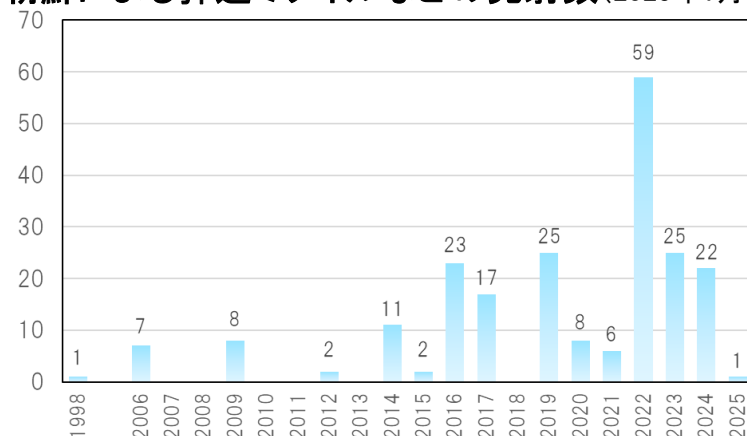
3 我が国周辺の安全保障環境：北朝鮮

- 北朝鮮の究極目標は「体制維持」とみられ、米軍及び韓国軍の通常戦力や、核を含む米国の脅威に対抗するためには、独自の核抑止力構築が不可欠と認識。このため、北朝鮮は、核兵器とともに、その運搬手段である弾道ミサイルの開発を推進
- 我が国を射程に収める弾道ミサイルに核兵器を搭載し、我が国を攻撃する能力を保有
- 低空を変則軌道で飛翔可能な短距離弾道ミサイルの運用能力を向上させ、様々なプラットフォームから発射することで、兆候把握・探知・迎撃を困難にするなど、より実戦的なミサイル戦力を拡充
- ロシアのウクライナ侵攻に関連し、ロシアに弾道ミサイル等の供与や兵士派遣を行うなど、前例のない態様でロシアとの軍事協力を強化
- 北朝鮮の軍事動向は、我が国の安全保障にとって、従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威

北朝鮮の弾道ミサイルの射程



北朝鮮による弾道ミサイルなどの発射数(2025年1月現在)



中距離弾道ミサイル(IRBM)級弾道ミサイルの発射時(2025年1月)に北朝鮮が公表した写真
【出典:朝鮮中央通信】



3 我が国周辺の安全保障環境：北朝鮮

ミサイル関連技術の向上

発射の秘匿性・即時性向上

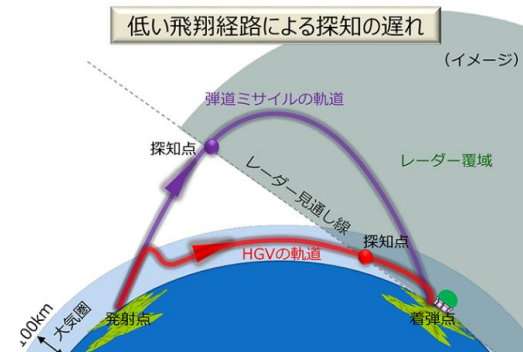


- ◆ 様々なプラットフォームからの発射
(任意の地点からの発射・隠蔽が可能)
- ◆ 固体燃料化
(液体に比べ、保管や取扱い等が容易)

⇒発射の秘匿性・即時性を追求

BMD突破能力の向上

- ◆ 低空を変則的な軌道で飛翔可能な弾道ミサイルの開発
- ◆ 「極超音速滑空飛行弾頭」の開発



⇒迎撃を困難にし、ミサイル防衛網突破を企図

長射程ミサイルの開発



ICBM級「火星17」※
「火星18」「火星19」※
(射程15,000km以上)

ICBM級「火星15」※
(射程14,000km以上)

ICBM級「火星14」
(射程5,500km以上)

※弾頭重量等による

新型ICBM級「火星17」



⇒開発を進展させた場合、**米国に対する抑止力を確保したと一方的に認識し、軍事的挑発の増加・重大化につながる可能性も**

ミサイル運用能力の向上

◆ 複数発の同時発射



8発の弾道ミサイル発射
(2022年6月)

複数発の弾道ミサイル発射
(2024年5月)



【出典：労働新聞】

◆ 発射間隔が1分未満の発射



SRBM
(2019年11月)

◆ 弾道ミサイルを異なる場所から発射し、特定の目標に命中させることを追求



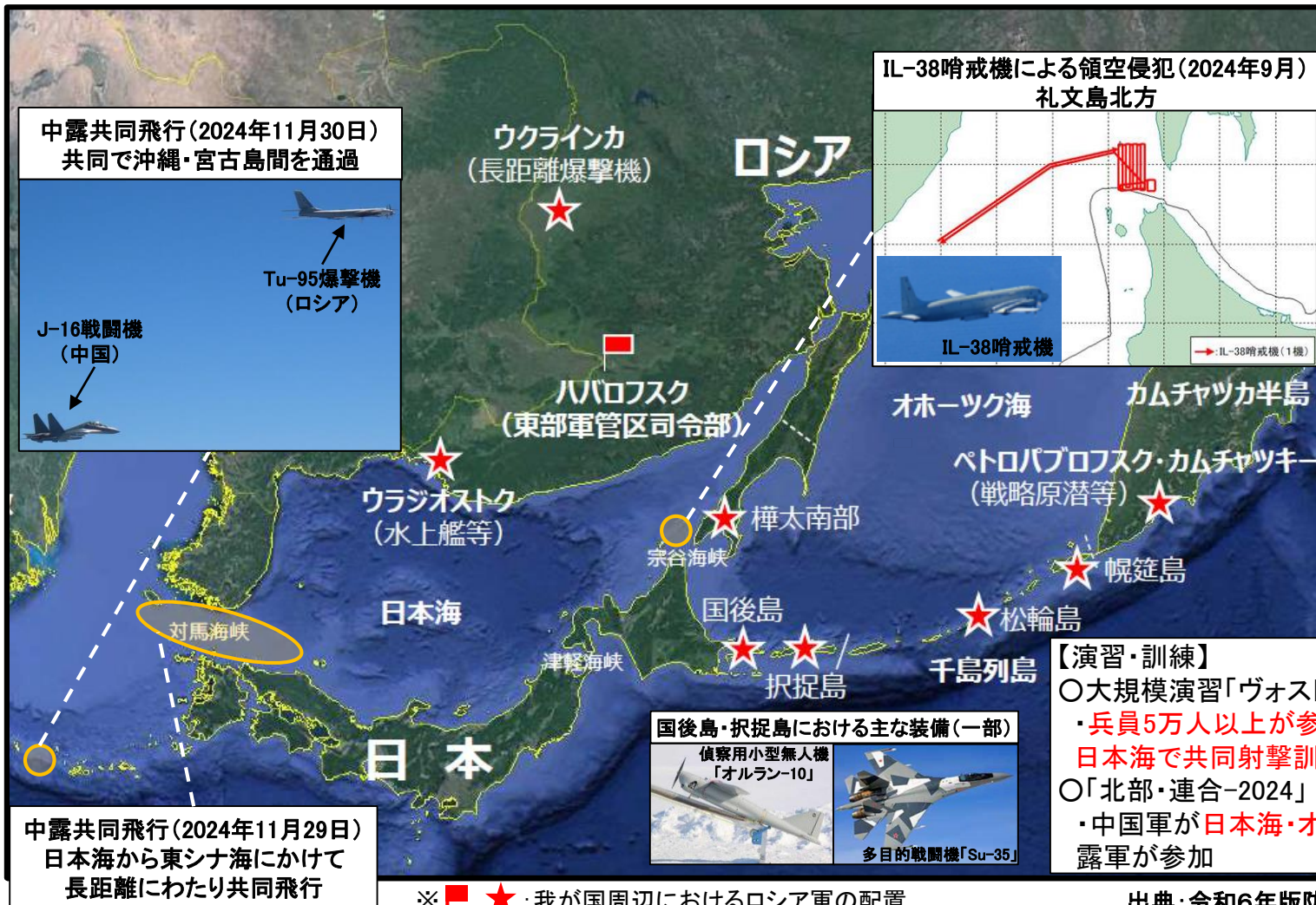
特定の目標に命中
(2019年5月)

⇒ミサイル関連技術の向上のみならず、**飽和攻撃**といった**実戦的なミサイル運用能力の向上**を企図している可能性



3 我が国周辺の安全保障環境：ロシア

- プーチン大統領は、「強い国家」や「影響力ある大国」を掲げ、ロシアの復活を追求
- 戦略核兵器の近代化に取り組む姿勢を明確化
- 我が国周辺でも、**新型装備の導入や演習など活発な活動を継続、中国との軍事的な連携を強化**
- ロシアの軍事動向は、**中国との戦略的な連携と相まって安全保障上の強い懸念**



極東ロシア軍の新型装備品(例)



Su-35S戦闘機



ステレグシチー
III級フリゲート



地対空ミサイル
「S-400」



ボレイ級戦略原子力潜水艦

【演習・訓練】

- 大規模演習「ヴォストーク2022」(22年9月)(国防省発表)
 - ・兵員5万人以上が参加したほか、**中国海軍と北海道西方の日本海で共同射撃訓練を実施**
- 「北部・連合-2024」演習(24年9月)(中国国防部発表)
 - ・中国軍が**日本海・オホーツク海の関連海・空域**で行う演習に露軍が参加

※ 、：我が国周辺におけるロシア軍の配置

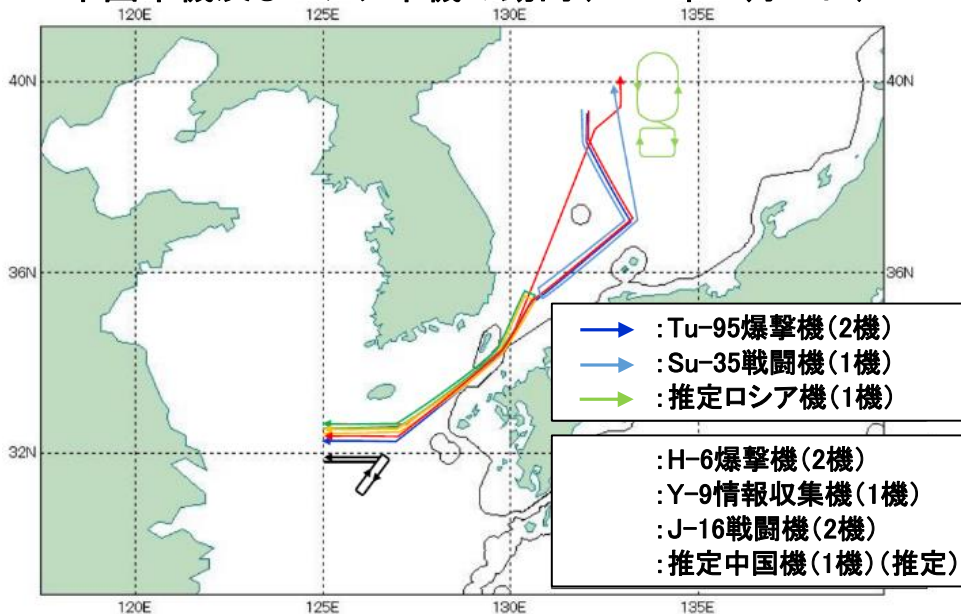
出典：令和6年版防衛白書、防衛省HP、統幕HPを基に作成



3 我が国周辺の安全保障環境：中露共同飛行

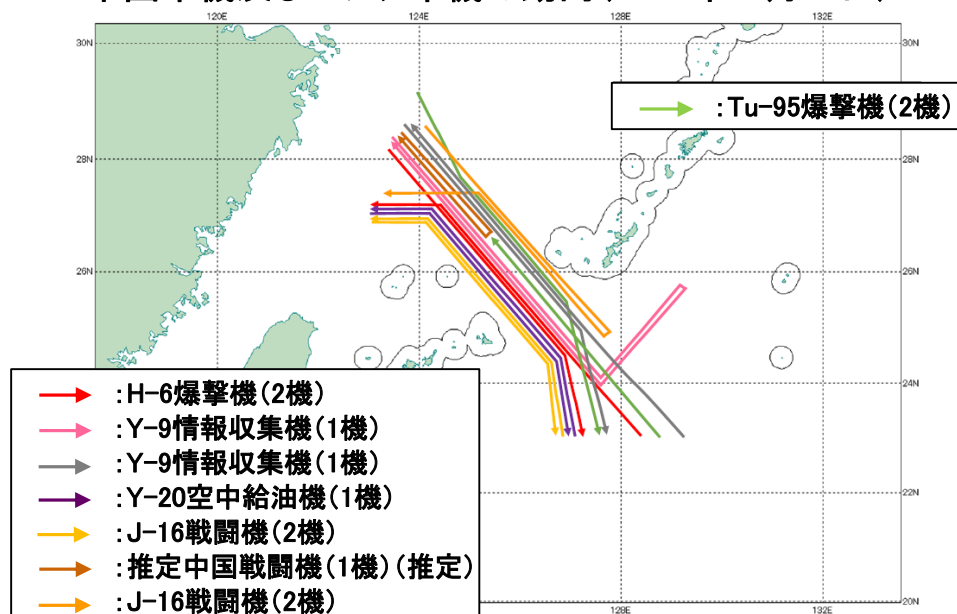
- 2019年以降、**中露両国は爆撃機の共同飛行**を日本海、東シナ海、太平洋などで実施
- **相手国への相互着陸**や**戦闘機の随伴飛行**を実施する等、着実に連携を強化
- 2023年3月の中露共同声明で定期的な実施が明記

中国軍機及びロシア軍機の動向(2024年11月29日)

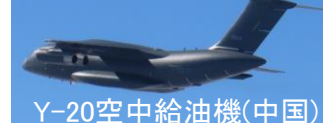


中国のH-6爆撃機(2機)及びロシアのTu-95爆撃機(2機)が日本海から東シナ海にかけての長距離にわたって共同飛行
当該爆撃機が日本海を共同飛行する際に、ロシアのSu-35戦闘機(1機)が合流

中国軍機及びロシア軍機の動向(2024年11月30日)



中国のH-6爆撃機(2機)及びロシアのTu-95爆撃機(2機)が中国方面から飛来し、共同で沖縄本島と宮古島との間を通過して太平洋まで飛行した後、太平洋上で反転し、沖縄本島と宮古島の間を再度通過して東シナ海へ飛行
当該爆撃機が共同で太平洋まで飛行する間、中国のJ-16戦闘機(4機)、中国のY-20空中給油機(1機)などが合流したことを確認



II

航空防衛力の意義、航空自衛隊の任務等

- 1 航空自衛隊の任務と行動
- 2 航空防衛力の特徴
- 3 航空自衛隊の編成



1 航空自衛隊の任務と行動

自衛隊法 第3条【自衛隊の任務】抜粋

- 我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、我が国を防衛
- 必要に応じ、公共の秩序維持等
- 航空自衛隊は主として空において行動



対領空侵犯措置

自衛隊法 第6章【自衛隊の行動】抜粋

- 防衛出動(第76条)
- 国民保護等派遣(第77条の4)
- 治安出動(第78条、第81条)
- 自衛隊の施設等の警護出動(第81条の2)
- 海上における警備行動(第82条)
- 海賊対処行動(第82条の2)
- 弾道ミサイル等に対する破壊措置(第82条の3)
- 災害派遣(第83条)、地震防災派遣(第83条の2)
- 原子力災害派遣(第83条の3)
- 領空侵犯に対する措置(第84条)
- 在外邦人等の保護措置、輸送(第84条の3、第84条の4)
- 国際緊急援助活動、国際平和協力業務等(第84条の5)



弾道ミサイル等に対する破壊措置



災害派遣

自衛隊法 第8章【雑則】抜粋

- 運動競技会に対する協力(第100条の3)
- 国賓等の輸送(第100条の5)



在外邦人等の輸送、国際緊急援助活動



1 航空自衛隊の任務と行動

航空自衛隊は、平時から有事まで、**空と宇宙を守る唯一の存在**

陸

海

空と宇宙

【有事】

防衛力

陸上自衛隊



自衛官：約15万人

海上自衛隊



自衛官：約4.5万人
主要艦艇：約140隻

航空自衛隊



自衛官：約4.7万人
主要航空機：約450機



SSALレーダー



衛星妨害状況把握装置

【平時】

警察力

警察

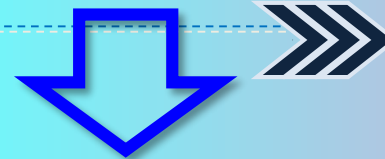


警察官等：約26万人

海上保安庁



人員：約1.5万人
船舶：480隻



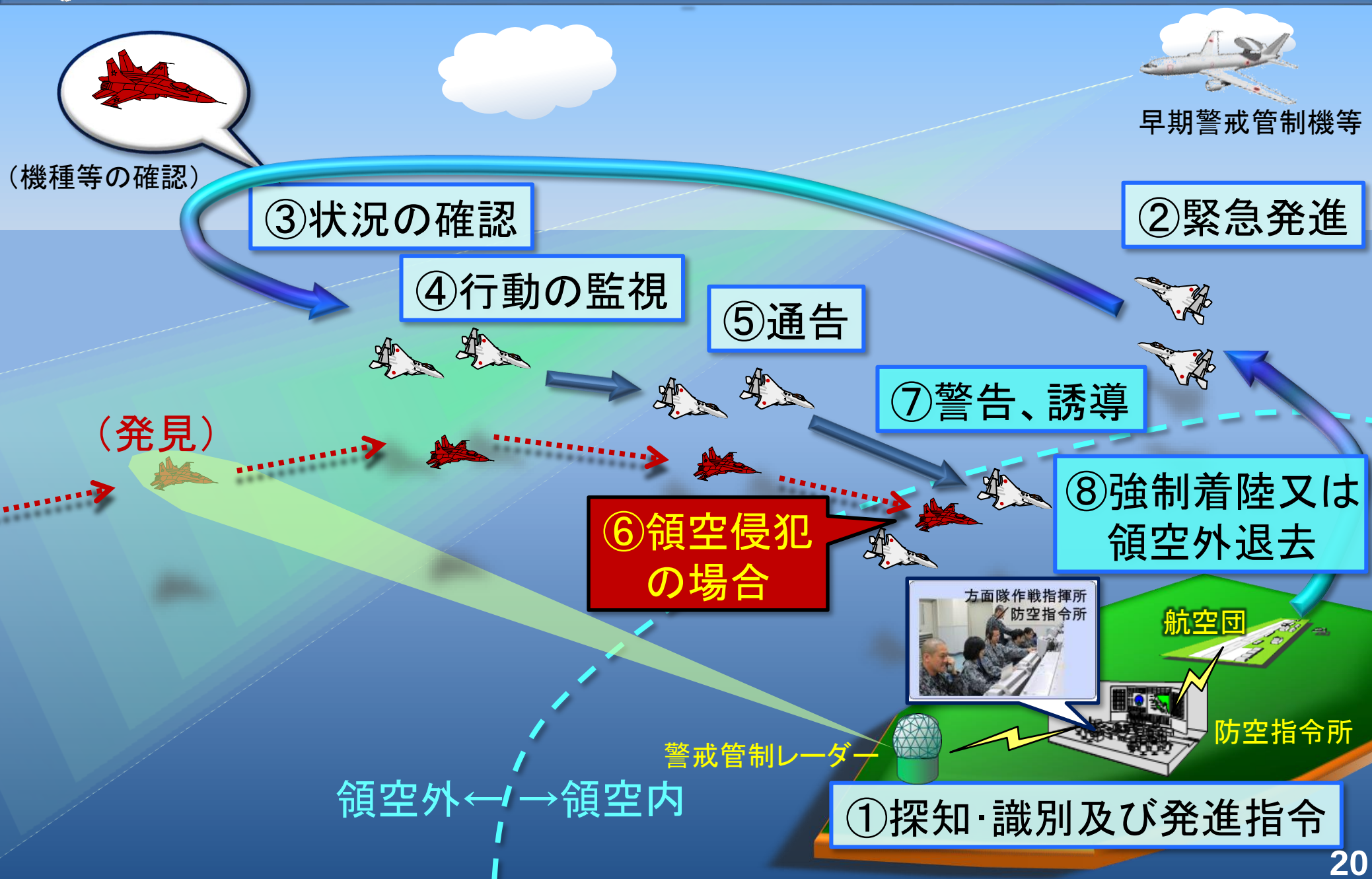
警察機関では対応が困難との事情から、その実効性等も踏まえ、**空自が対領空侵犯措置を実施**

宇宙の安定的利用を確保するため、関係機関等と連携し、**空自が宇宙領域把握を実施**

➤航空自衛隊は、**平時・有事問わず航空及び宇宙領域における日本代表**



領空侵犯に対する措置 (隊法84条)

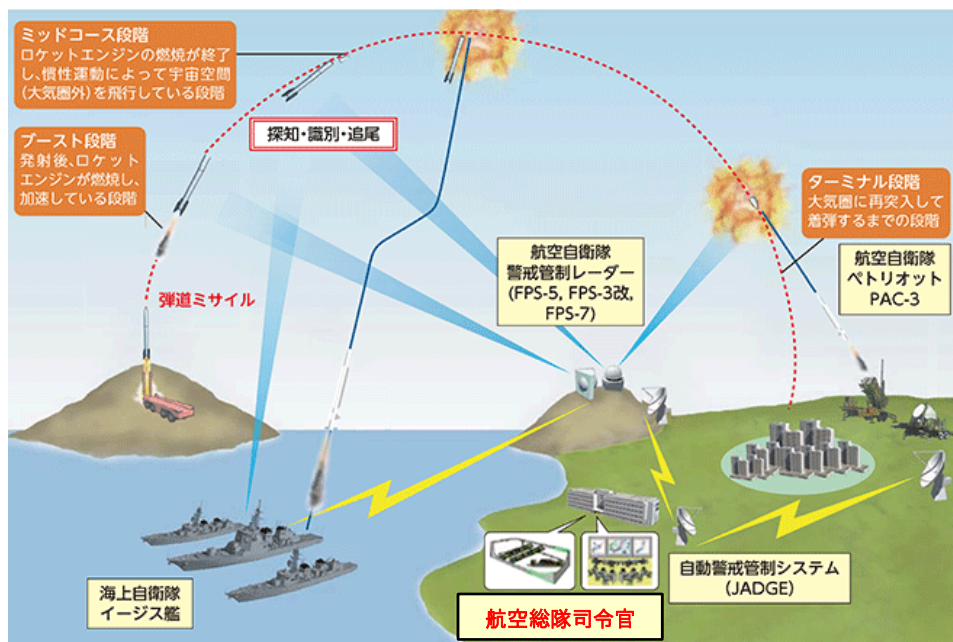




弾道ミサイル等に対する破壊措置 (隊法82条の3)

➤ 統合作戦司令官の一元的な指揮のもと、**航空総隊司令官**が**陸・海・空構成部隊**を一部**指揮**し、弾道ミサイル等へ対処

BMD 整備構想・運用構想



指揮系統のイメージ



BMD (Ballistic Missile Defense) : 弾道ミサイル防衛



災害派遣(第83条)

石川県能登半島における大雨に係る災害派遣(2024年9月21日～)



輪島市久手川町での搜索救助活動(9月22日)



UH-60Jによる情報収集(崖崩れ)(9月22日)



UH-60Jによる人員及び物資の輸送(9月25日)



輪島市町野町での一斉搜索活動(10月6日)



災害派遣(第83条)

急患空輸(2024年度)



奥尻～函館(U-125A)



利尻島～札幌(U-125A)



対馬～福岡(U-125A)



那覇飛行場東南東沖～那覇(UH-60J)

活動内容	活動規模(空白)	
患者輸送	航空機(UH-60J、U-125A、C-2、C-130H)	延べ 31回



在外邦人等の輸送、国際緊急援助活動等（第84条の4等）

- 1992年、初の国際平和維持活動となる、カンボジア国際平和協力業務を皮切りに、**30年以上にわたり、航空輸送任務を中心に数々の国際緊急援助活動、在外邦人等の輸送等を実施**
- 直近では、2024年イスラエル・レバノンにおける情勢悪化に伴い**レバノンからヨルダンまで在外邦人等の輸送を実施**





在外邦人等の輸送、国際緊急援助活動等（第84条の4等）

在レバノン共和国邦人等の輸送（2024年10月4日）

➤ヨルダンで待機していたC-2がレバノンへ移動し、16名の在外邦人等をヨルダンまで輸送



ラフィック・ハリリ国際空港（レバノン）へ向け
マルカ国際空港（ヨルダン）を出発するC-2輸送機



C-2輸送機内の邦人等輸送任務隊員の様子



ラフィック・ハリリ国際空港（レバノン）で
C-2輸送機への搭乗を待つ様子



マルカ国際空港（ヨルダン）から邦人等を見送る様子



国賓等の輸送 (第100条の5)

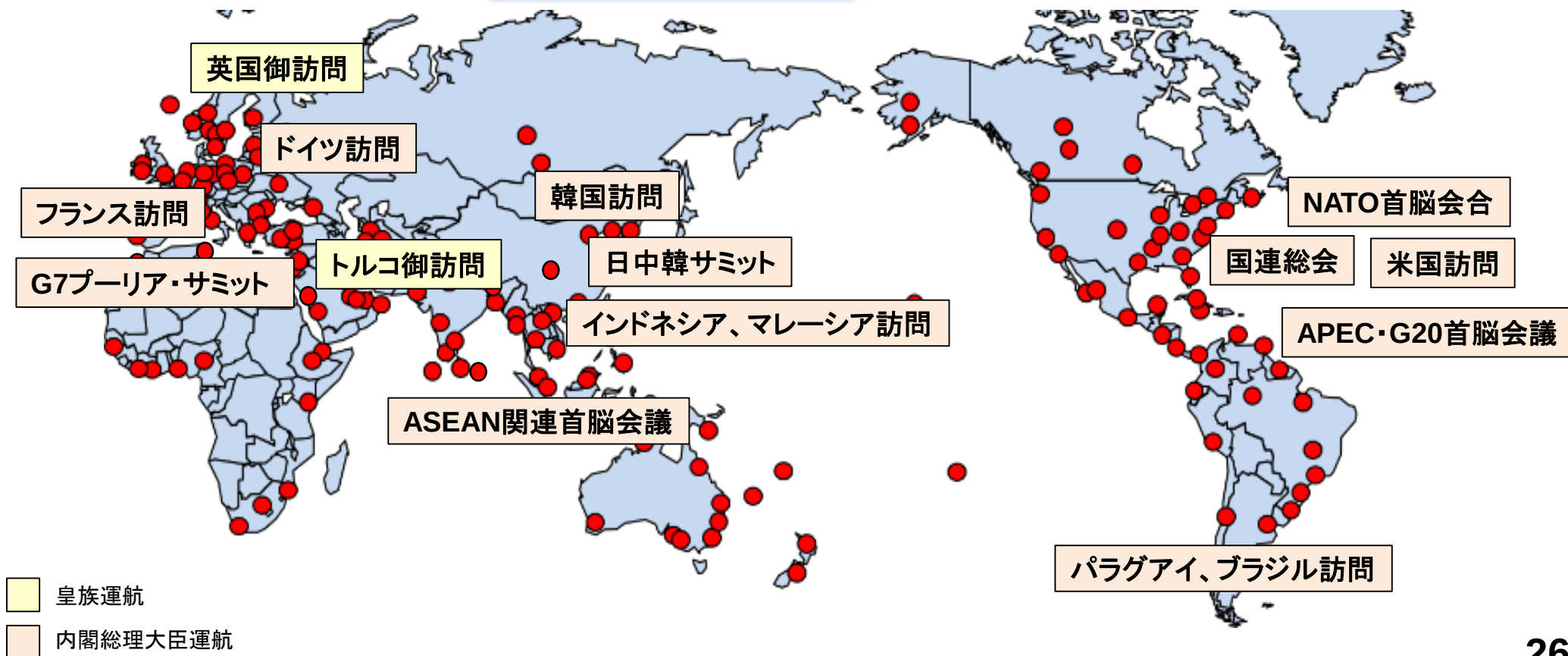
- 1993年以降、特別輸送機による国賓等の輸送を実施
- 任務運航は、通算で374回 注: 2025年2月21日現在
(B-747: 318回、B-777: 56回)
- 101カ国(289都市)を訪問



機内の様子



国賓等輸送(内閣総理大臣)





2 航空防衛力の特徴

航空防衛力の意義

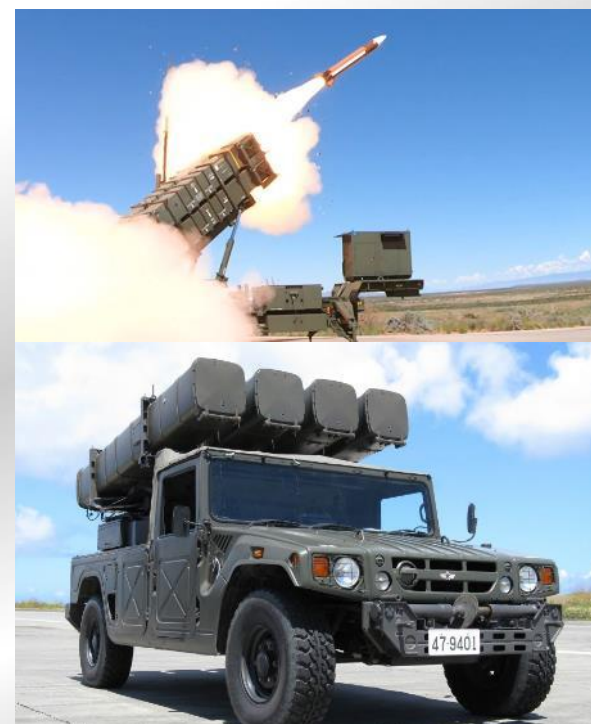
航空機、レーダー、ミサイル等を主体とした、国家が保有する航空に関する防衛力



戦闘機部隊



航空警戒管制部隊



地对空誘導弾部隊



2 航空防衛力の特徴

高い即応性・機動性



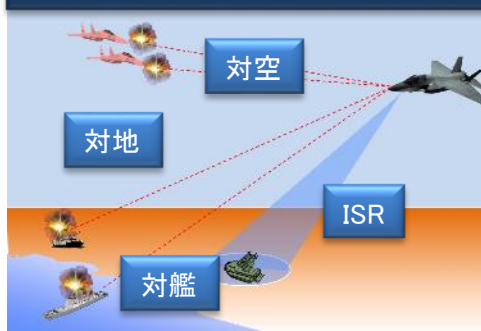
優れた監視能力



天象・気象の影響



高い柔軟性・多様性



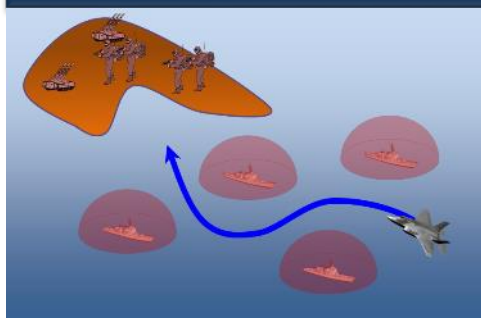
優れた指揮・統制・通信能力



地上では脆弱



高い突破力・生存性



精密な対処能力



防衛力造成に長期間

装備品等取得

人材育成





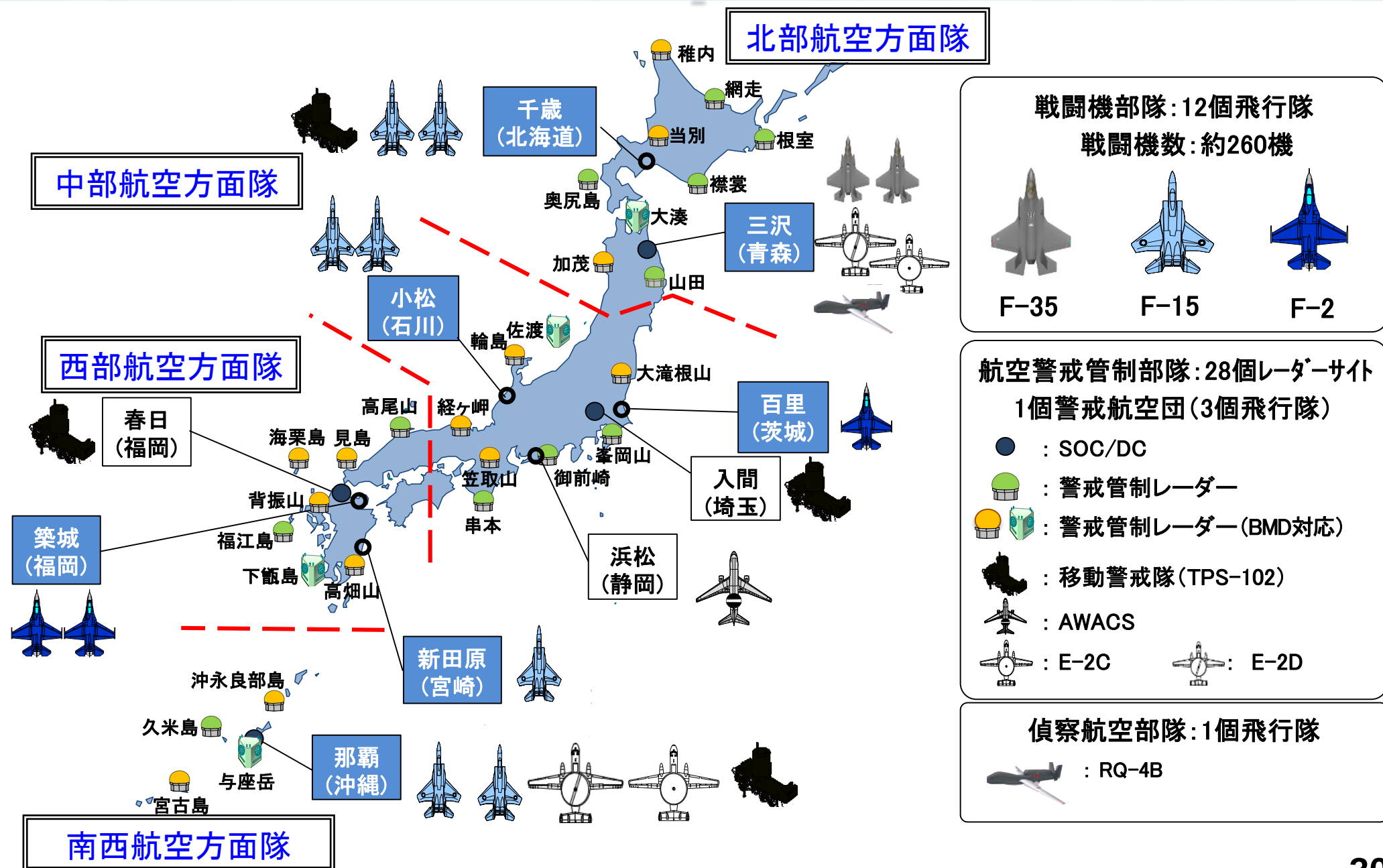
3 航空自衛隊の編成



航空自衛隊定員: 約50,000名 (うち事務官等約2,800名)
注: 2024年度末定員、四捨五入により符合しない場合あり。



3 航空自衛隊の編成(航空総隊)





3 航空自衛隊の編成(航空総隊)



迎撃ミサイル発射の状況



器材展開の状況



3 航空自衛隊の編成(航空総隊)

航空救難部隊: 10個救難隊

U-125A



UH-60J



ヘリコプター空輸部隊: 4個飛行隊

CH-47J





3 航空自衛隊の編成(航空支援集団)





3 航空自衛隊の編成(航空支援集団)



B-777



C-2



KC-46A



KC-767



U-4



C-130H



U-125



U-680A

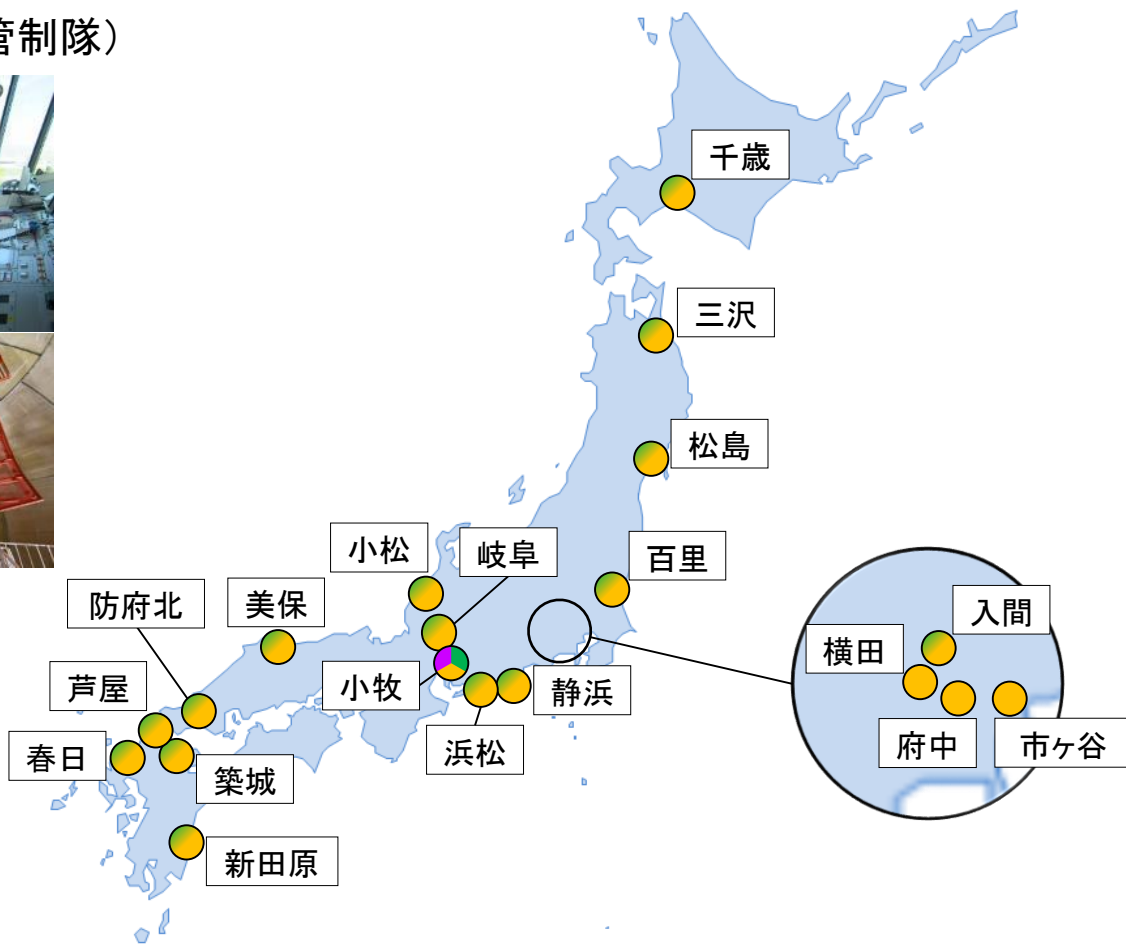
航空輸送部隊 : 3個飛行隊
空中給油・輸送部隊 : 2個飛行隊
特別航空輸送部隊 : 1個飛行隊
飛行点検部隊 : 1個飛行隊

(2024年度末時点)



3 航空自衛隊の編成(航空支援集団)

● 管制隊(17個管制隊)



● 気象隊(20個気象隊)



● 航空機動衛生隊





3 航空自衛隊の編成(航空教育集团)



注：破線は、隷属関係はないが校務の掌理については航空教育集团司令官の指揮監督を受けることを示す。



3 航空自衛隊の編成(航空開発実験集団)

航空開発実験集団司令官

航空開発実験集団司令部(府中)

飛行開発実験団(岐阜)

- ・航空装備品等の試験及び評価並びに基礎的運用研究
- ・防衛装備庁に対する協力
- ・防衛装備庁の依頼に基づく領収のための飛行
- ・試験飛行操縦士に対する教育訓練



電子開発実験群(府中)

- ・地上通信電子器材等の試験及び評価並びに基礎的運用研究
- ・防衛装備庁に対する協力
- ・電波環境及び通信の品質に関する技術調査



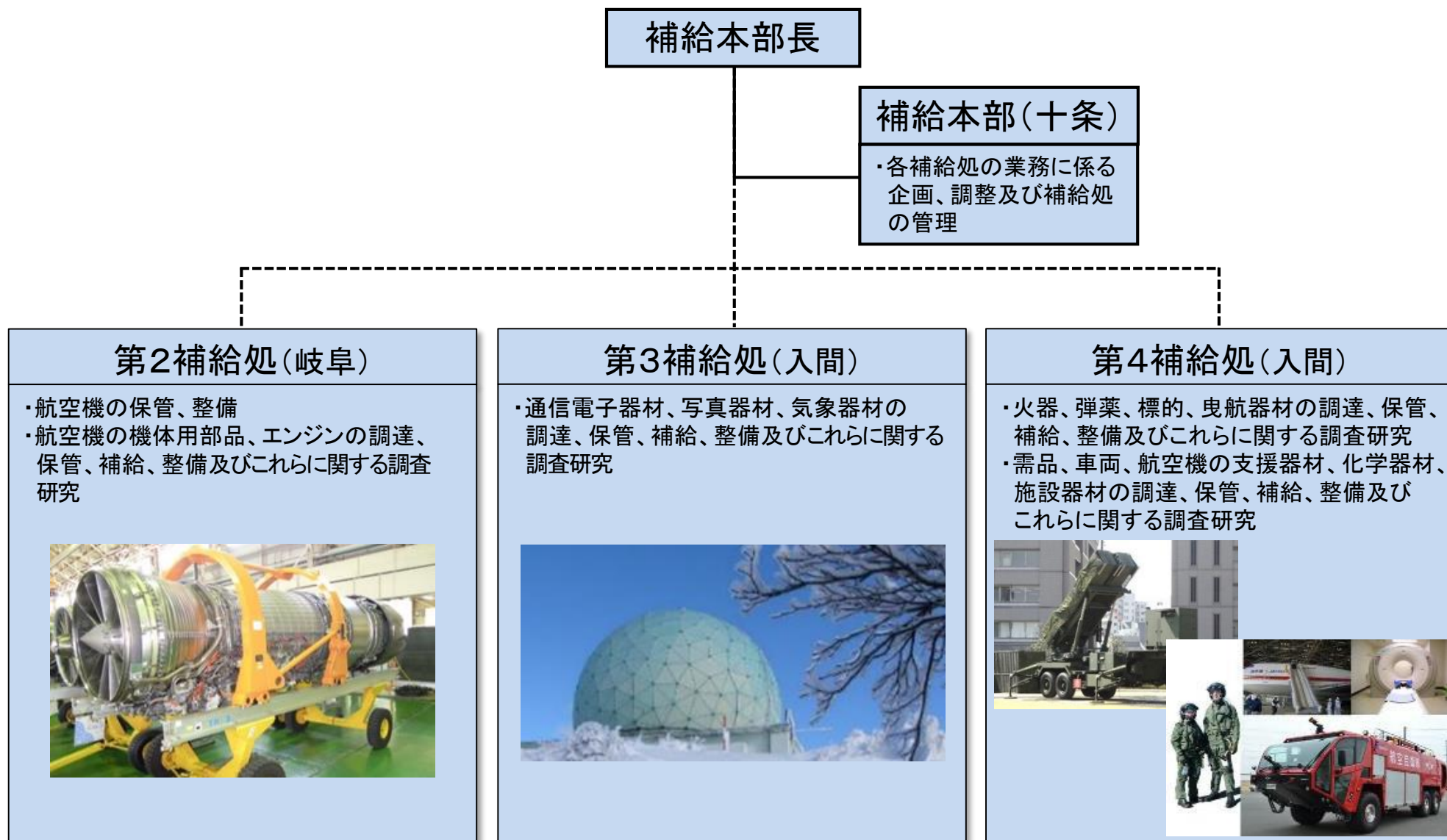
航空医学安全研究隊(入間)

- ・航空医学、心理学及び航空事故防止の各種調査研究
- ・航空医学及び心理学上の実用試験
- ・航空事故調査に関する現地調査等の支援
- ・飛行安全に関する資料の収集、処理及び配布並びに教育
- ・航空医学適性評価及び航空生理訓練
- ・他自衛隊、防衛装備庁等に対する協力





3 航空自衛隊の編成(補給本部等)



注：破線は、補給本部長の指揮監督を受けることを示す。



3 航空自衛隊の編成(宇宙作戦群)

【防衛力整備計画(令和4年12月16日)】

- 将官を指揮官とする宇宙領域専門部隊を新編
- 航空自衛隊を航空宇宙自衛隊へ
- 民生技術の取り込みを図りながら、早期装備化を実現

○ 2024(令和6)年3月
宇宙作戦群の改編

○ 2023(令和5)年3月
宇宙作戦群の改編

○ 2022(令和4)年3月
宇宙作戦群の新編

○ 2021(令和3)年3月
空幕防衛部事業計画2課
宇宙領域班の新編

○ 2020(令和2)年5月
宇宙作戦隊の新編



防府北基地

防衛大臣

宇宙作戦群

宇宙作戦群本部

府中基地

宇宙作戦指揮所運用隊

第1宇宙作戦隊

第1宇宙システム管理隊

第2宇宙作戦隊

第2宇宙システム管理隊



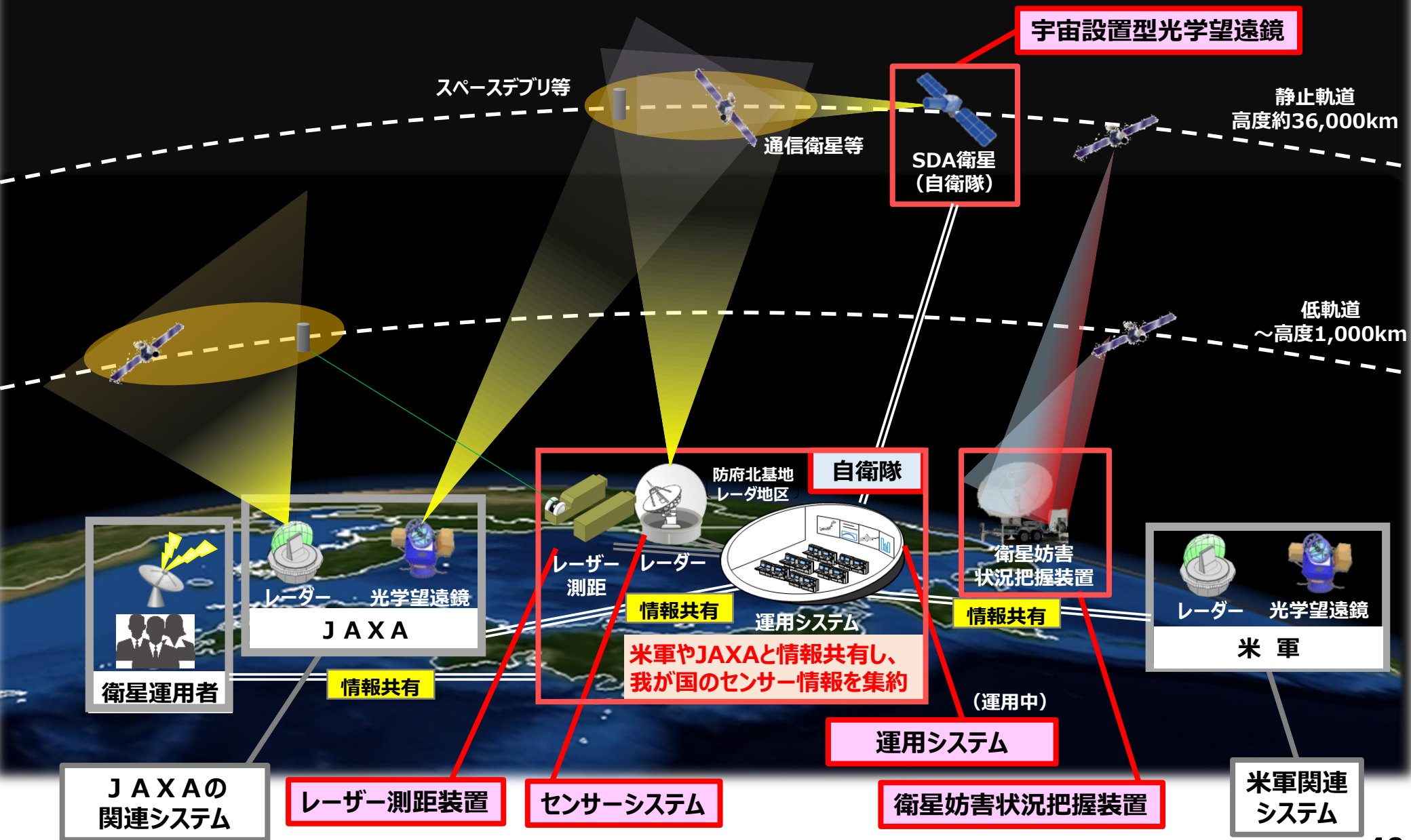
令和6年度末で約310名体制

【平成31年度以降に係る防衛計画の大綱】

航空自衛隊において宇宙領域専門部隊を保持



宇宙領域における空自の態勢整備



※ SSA (Space Situational Awareness) : 宇宙状況把握

III

防衛力の抜本的強化へ向けた取組

- 1 国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画
- 2 航空防衛力発揮の要となる各機能と7つの重視分野の関係
- 3 令和7年度予算 主要事業等
- 4 同盟国・同志国との連携



1 国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画

戦略文書体系

国家安全保障戦略

外交、防衛に加え、経済安保、技術、サイバー、情報等の安全保障に関連する分野の諸政策に戦略的な指針を与えるもの（概ね10年程度の期間を念頭）

国家防衛戦略

防衛の目標を設定し、それを達成するための方法と手段
（概ね10年程度の期間を念頭）

航空自衛隊を航空宇宙自衛隊とする。

防衛力整備計画

保有すべき防衛力の水準

（①概ね10年後の体制及び ②5カ年の経費の総額・主要装備品の整備数量）

将官を指揮官とする宇宙専門領域部隊を新編するとともに、航空自衛隊を航空宇宙自衛隊とする。



7つの重視分野(7つの柱)

➤ **7つの分野を重視して、防衛力の抜本的強化に取り組む。**

●我が国への**侵攻そのものを抑止**するために、遠距離から侵攻戦力を阻止・排除

① スタンド・オフ防衛能力



② 統合防空ミサイル防衛能力



●万一**抑止が破れ、我が国への侵攻が生起した場合**、①②の能力に加え、有人アセット、更に無人アセットを駆使しつつ、水中・海上・空中といった**領域を横断して優越を獲得し、非対称的な優勢を確保**

③ 無人アセット
防衛能力



④ 領域横断
作戦能力



⑤ 指揮統制・
情報関連機能



●**迅速かつ粘り強く活動**し続けて、相手方の侵攻意図を断念

⑥ 機動展開能力・国民保護



⑦ 持続性・強靱性





2 航空防衛力発揮の要となる各機能と7つの重視分野の関係

Command & Control
JADGE等

運用支援機能
航空輸送、空中給油、航空救難等

Sensors
地上・空中レーダー等

Shooters
戦闘機・地対空誘導弾等

運用基盤機能
整備、施設、管制、気象等

①スタンド・
オフ防衛能力

②統合防空
ミサイル防衛
能力

③無人アセット
防衛能力

④領域横断
作戦能力

⑤指揮統制・
情報関連機能

⑥機動展開
能力・国民
保護

⑦持続性・
強靱性



3 令和7年度予算 主要事業等

スタンド・オフ防衛能力

- ・ スタンド・オフ・ミサイル(JSM・JASSM)取得
- ・ 搭載母機の整備
(F-35A及びF-2の能力向上改修)
- ・ 空自クラウド(目標情報サービス)の整備



JSM※1
(イメージ)



JASSM※2
(イメージ)



F-35A能力向上改修



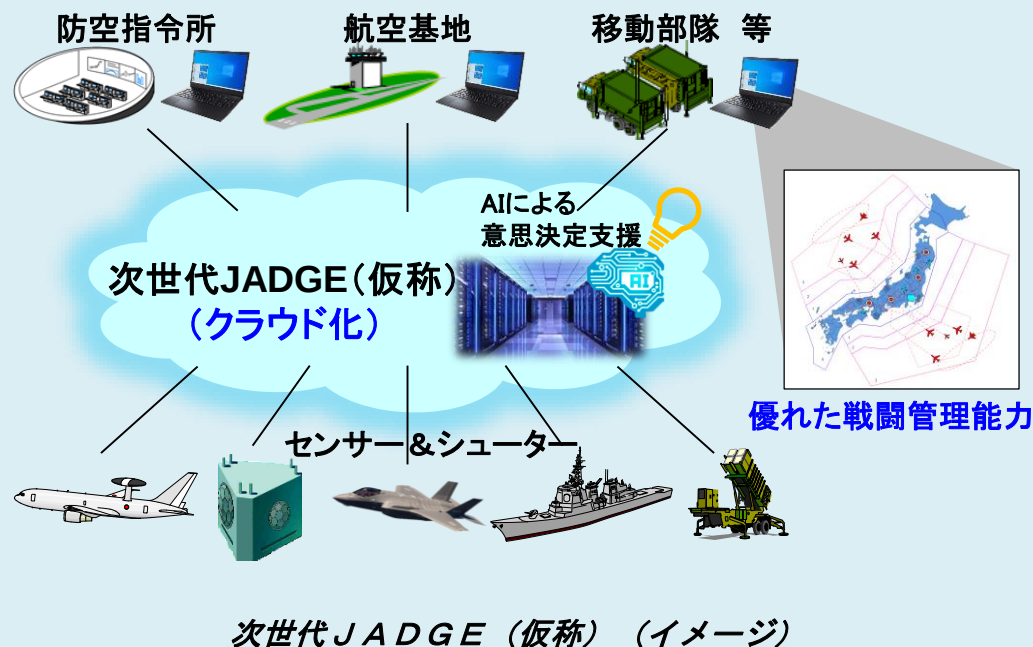
F-2能力向上改修

※1 JSM: Joint Strike Missile

※2 JASSM: Joint Air-to-Surface Stand-Off Missile

統合防空ミサイル防衛能力

- ・ 次世代JADGE(仮称)の整備
- ・ 移動式警戒管制レーダーの増勢(北大東島)
- ・ FPS-5及び7の機能付加(HGV対応)
- ・ PAC-3MSEの取得





3 令和7年度予算 主要事業等

無人アセット防衛能力

- ・ 滞空型無人機の運用に必要な施策

領域横断作戦能力

- 宇宙領域における能力強化
 - ・ 衛星妨害状況把握装置の整備
 - ・ SDA衛星の整備
 - ・ 宇宙作戦団(仮称)の新編



衛星妨害状況把握装置

- サイバー領域における能力強化
 - ・ 空自クラウド(セキュリティサービス等)の整備
 - ・ サイバー教育態勢の整備
- 電磁波領域における能力強化
 - ・ 電波情報収集機(RC-2)の取得
 - ・ F-35A/Bの取得等、F-2 能力向上改修
- 航空における能力強化
 - ・ F-35A/Bの取得等、F-2 能力向上改修
 - ・ 次期初等練習機及び地上教育器材の取得



F-35B(イメージ)



次期初等練習機T-6
(写真と同型機種)



3 令和7年度予算 主要事業等

指揮統制・情報関連機能

● 指揮統制機能

- ・ 次世代JADGE(仮称)の整備【再掲】
- ・ 空自クラウド(指揮統制サービス)の整備

● 情報関連機能

- ・ 電波情報収集機(RC-2)の取得【再掲】
- ・ 地上電波測定装置等の整備
(西・南西、北大東島)



地上電波測定装置
(J/FLR-4A)

機動展開能力・国民保護

- ・ KC-46Aの取得、操縦者・空中輸送員等の要員養成
- ・ 部隊を迅速に機動展開させるために必要な施策の推進 等



KC-46A

持続性・強靱性

● 弾薬・燃料の確保等

- ・ 航空機行動用弾薬等の取得



AIM-120 (イメージ)

● 装備品等の維持整備

- ・ 調達リードタイムに応じた部品の適正な取得
(可動数最大化)

- ・ 各種部隊及び補給処整備器材の取得

● 施設の強靱化

- ・ 施設の抗たん化等の必要な施策の推進
(分散パッド、航空機隠蔽用施設等)
- ・ 各種老朽対策、災害対策の推進

● 衛生機能の強化

- ・ 第一線救護、後送間救護に係る医療資器材の取得
- ・ 血液の自律的確保(供血者を確保するための血液検査)



4 同盟国・同志国等との連携

航空自衛隊の防衛協力・交流の方針

- 自由で開かれた
インド太平洋
(FOIP)
- 自由で開かれたインド太平洋を介してアジアとアフリカの「連結性」を向上させ、地域全体の安定と繁栄を促進することを目指すビジョン



● 戦略三文書

- 日米同盟の強化
- 自由で開かれた国際秩序の維持・発展と同盟国・同志国等との連携の強化

防衛協力・交流における空自の取組み

「自由で開かれたインド太平洋」の実現に寄与するため、**二国間・多国間**の枠組みを活用し、**ハイレベル交流、実務者交流、共同訓練**等の防衛協力・交流を積極的に推進



4 同盟国・同志国等との連携

ハイレベル交流



部隊間交流・実務者交流



仏航空宇宙軍



印空軍



インドネシア空軍

共同訓練



コープ・ノース25



ライジング・サン24



①日米同盟強化のための取組

- **日米安保体制を中核とする日米同盟**は、我が国のみならず、インド太平洋地域、さらには国際社会の平和と安定及び繁栄に大きな役割
- 日米同盟の**抑止力・対処力を強化**するべく、平素から日米の**相互理解**と**意思疎通**を深めるとともに、相互運用性等を向上させるため、**各職種及び各レベルでの協議、共同訓練等を実施**

戦略レベル

ハイレベル協議を通じた
戦略の一致



作戦レベル

各種施策による作戦面での
協力の深化



戦術レベル

共同訓練を通じた戦術面での
相互運用性の向上





①日米同盟強化のための取組



2024.7 将来の戦闘機パイロットの教育と
即応性のためのワーキンググループ第1回会合



2024.11 日米施設部隊被害復旧等訓練



2025.1.15 日米共同訓練



2025.2 コープ・ノース25(アンダーセン空軍基地)



②同志国等との共同訓練

➤政府、省による「自由で開かれたインド太平洋」に係る活動への寄与の観点から、航空防衛力を活用しつつ**インド太平洋地域の各国及び同地域への関与を強化している国との連携を強化**

ピッチ・ブラック24 



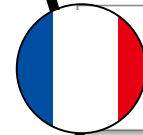
日独西共同訓練 



2024.7
ピッチ・ブラック 24@AUS



2024.7
日独西共同訓練@JPN



2024.7
日仏共同訓練@JPN



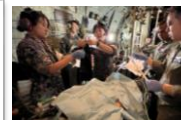
2024.8
パシフィック・エンジェル24-1
@PNG



2024.8
ライジング・サン 24@JPN



2024.10
ドウシン・バヤニハン4-24@PHI



2025.2
コープノース 25@GUAM



日仏共同訓練 



ライジング・サン24 



ドウシン・バヤニハン4-24 



コープノース 25 





②同志国等との共同訓練

ピッチ・ブラック24(2024年7月～8月)@豪州・ダーウィン空軍基地



空自F-2戦闘機



F-2へ爆弾搭載



日米豪比4か国空軍参謀長等会談

- **オーストラリア空軍が主催する多国間演習**、2022年に引き続き2回目の参加
- E767を豪州へ初展開させたほか、F-2による爆撃訓練を豪州で初めて実施
- 日米豪比4か国空軍参謀長等会談を実施



②同志国等との共同訓練

日仏共同訓練(2024年7月)@百里基地



歓迎を受ける仏ラファール



日仏機による編隊飛行



- フランス航空宇宙軍の展開訓練「ペガース24」の一環として、百里基地に訪問
- 日本国内において、2023年に続き**2年連続、2回目**となる**フランス航空宇宙軍との共同訓練**



②同志国等との共同訓練

日独西共同訓練(2024年7月)@千歳基地



千歳基地を離陸する西ユーロファイター



日独西による編隊飛行



- パシフィック・スカイズの一環として、ドイツ空軍と共に**スペイン航空宇宙軍との共同訓練**
- スペイン航空宇宙軍とは初となる共同訓練であり、相互に戦術技量を確認



②同志国等との共同訓練

日独共同訓練(ニッポン・スカイズ24)(2024年7月)@千歳基地



空幕長とドイツ空軍総監による共同飛行



共同飛行後の航空幕僚長とドイツ空軍総監



千歳基地を離陸する独ユーロファイター



ドイツ空軍機への燃料補給

- 多国間訓練パシフィック・スカイズの一環として実施
- 日独物品役務相互提供協定(ACSA)締結後、初となるドイツ空軍機への燃料補給を実施



②同志国等との共同訓練

日伊共同訓練(ライジング・サン24)(2024年8月)@三沢基地



三沢基地に到着した伊F-35A



日伊機による編隊飛行



- 日本国内において、2023年に続き**2年連続、2回目となるイタリア空軍との共同訓練**
- イタリア空軍のF-35A、ユーロファイター及びKC-767等と共同訓練を実施
- 訓練には米空軍も参加し、日米伊3か国の連携を強化



③能力構築支援及び多国間防衛協力

- ASEAN各国等の能力向上に資する**能力構築支援**等を実施
- 国際航空法、航空気象、航空医学、飛行安全、航空救難、航空管制、HA／DR、サイバーセキュリティ及びWPSの9分野
- 日ASEAN防衛協力の指針であるビエンチャン・ビジョン2.0の下、日ASEAN空軍種間の信頼醸成を目的とした招へい事業「プロフェッショナル・エアマンシップ・プログラム(PAP)」を実施



スリランカ

・航空救難



集合写真(スリランカ)



指揮所演習意見交換(スリランカ)



ベトナム



航空救難訓練研修(松島基地)

- ・航空救難
- ・サイバーセキュリティ
- ・飛行安全
- ・国際航空法
- ・航空医学



フィリピン

・航空医学



部隊研修(入間基地)



ASEAN

- ・PAP
- ・WPS



部隊研修(笠取山分屯基地)



日ASEAN女性・平和・安全保障(WPS)協力プロジェクト

HA／DR(Humanitarian Assistance / Disaster Relief): 人道支援・災害救援
WPS(Women Peace, and Security): 女性・平和・安全保障



③能力構築支援及び多国間防衛協力



2025.2 スリランカ(派遣) (航空救難)



2024.12 モンゴル(小牧) (航空管制)



2024.11 ベトナム (松島) (航空救難)



2024.10 フィリピン(入間) (航空医学)

IV

トピックス

- 1 宇宙領域に係る取組の状況
- 2 次期戦闘機の開発への協力
- 3 空軍参謀長等招へい行事 (Air Force Forum in Japan)
- 4 いずも型護衛艦「かが」F-35B艦上運用試験
- 5 人的基盤の強化
- 6 ハラスメント防止への取組
- 7 地域との交流・連携



1 宇宙領域に係る取組の状況 (様々な主体との連携強化(JAXA及び同盟国・同志国))

- 2024(令和6)年3月
仏宇宙コマンド主催多国間宇宙演習
アステリクス(AsterX) 2024への参加(仏トゥールーズ)

- 2023(令和5)年12月 ~
連合宇宙作戦(CSpO)イニシアチブへの参加

※ CSpO: Combined Space Operations Initiative

- 2023(令和5)年5月 ~
米宇宙コマンド司令部への航空自衛官の派遣(ピーターソンSFB)

【防衛力整備計画(令和5年度~令和10年度)】

JAXA等の関係機関や米国等の同盟国・同志国との連携強化



- 2022(令和4)年6月 ~
JAXAへの航空自衛隊員の追加派遣(筑波+東京事務所)

- 2020(令和2)年10月 ~
米宇宙コマンド多国間調整所への航空自衛官の派遣(ハンデンバーグSFB)

- 2018(平成30)年10月 ~
シュリーバー演習への参加(マクスウェルAFB)

【中期防衛力整備計画(平成31年度~平成35年度)】

JAXA等の関係機関や米国等の関係国との協力

- 2017(平成29)年度 ~
JAXAへの航空自衛隊員の派遣(追跡ネットワーク技術センター)





1 宇宙領域に係る取組の状況 (様々な主体との連携強化(民間企業等))

衛星運用事業者へのSSA※情報提供

※SSA(Space Situational Awareness): 宇宙状況把握

- 2023年3月から、衛星運用事業者に対して航空自衛隊のSSA情報を提供開始
- 事業者が運用する各衛星の周囲にある他の衛星及びスペースデブリなどの軌道情報や接近分析情報などを提供

宇宙協力オフィス (Space Collaboration & Innovation Office)

- 2023年10月から、虎ノ門ヒルズ内に民間との協力を行うための「場」として、小規模オフィスを借り上げ
- 宇宙関連の高い技術力を有する民の知見を官が吸収し、将来の態勢整備に反映するとともに、官民協力の推進により、相乗的に我が国の宇宙力を高めることを期待
- 2024年2月、2025年2月に官民連携の向上を図るイベントを開催





2 次期戦闘機の開発への協力

- F-2の退役が見込まれる2035年までの初号機配備を目標とし、英国及びイタリアと次期戦闘機の共同開発を着実に推進
- 数に勝る敵に有効に対処できる能力を保持し、将来にわたって航空優勢を確保・維持できる能力を保持
- 航空自衛隊は、開発主管の防衛装備庁と緊密に連携しつつ、ユーザーニーズを反映させるとともに、英国、イタリア両国とも協力
- 次期戦闘機開発のための国際機関であるGIGOが設立。GIGOの職員として航空自衛官を英国に派遣

次期戦闘機のイメージ

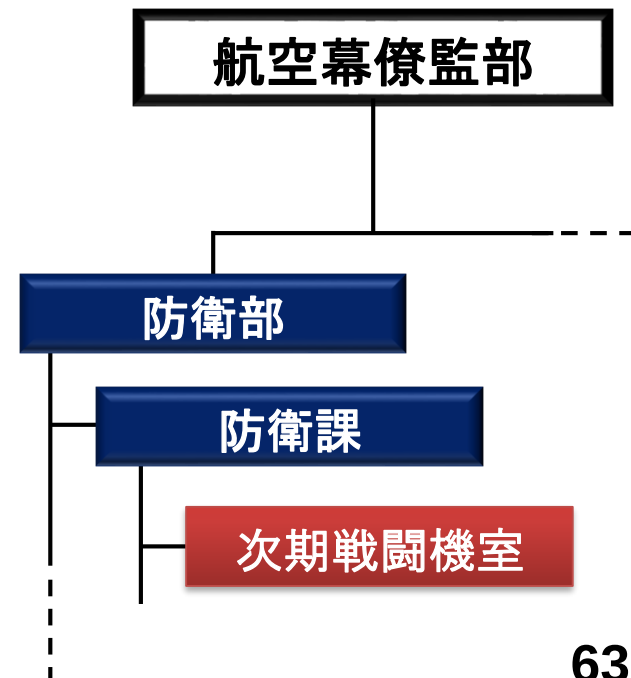


日英伊の連携



日英伊空軍参謀長級会合

航空自衛隊の体制





3 空軍参謀長等招へい行事(Air Force Forum in Japan)

➤空自70周年を記念して、各国空軍参謀長等を招へいし、会談及び多国間協議等を通じ、防衛協力・交流を推進

➤実施期間等:2024年10月14日(火)~18日(金)、ホテルオークラ東京及び空自入間基地等

1 二国間・多国間会談



日英伊3か国会談

2 多国間協議InPACT



パネルディスカッション

3 JA見学



空自ブース見学

4 空自入間基地見学



F-2見学



4 いずも型護衛艦「かが」F-35B艦上運用試験

- 2024年10月に海上自衛隊が米軍等の支援を得て、いずも型護衛艦「かが」によるF-35B艦上運用試験を実施
- 空自からも隊員を乗艦させ、F-35Bの発着艦に係る勤務員の連携要領の把握や燃料補給の体験等を実施



昇降機を用いた甲板への移動



発艦の様子



着艦の様子



燃料補給



5 人的基盤の強化(人材確保に関する取組み)

定年等自衛官の操縦士の再任用

【操縦士の再任用に係る制度】

➤ 定年再任用

令和4年度に、操縦教官として航空機に搭乗して行う教育訓練の業務を追加

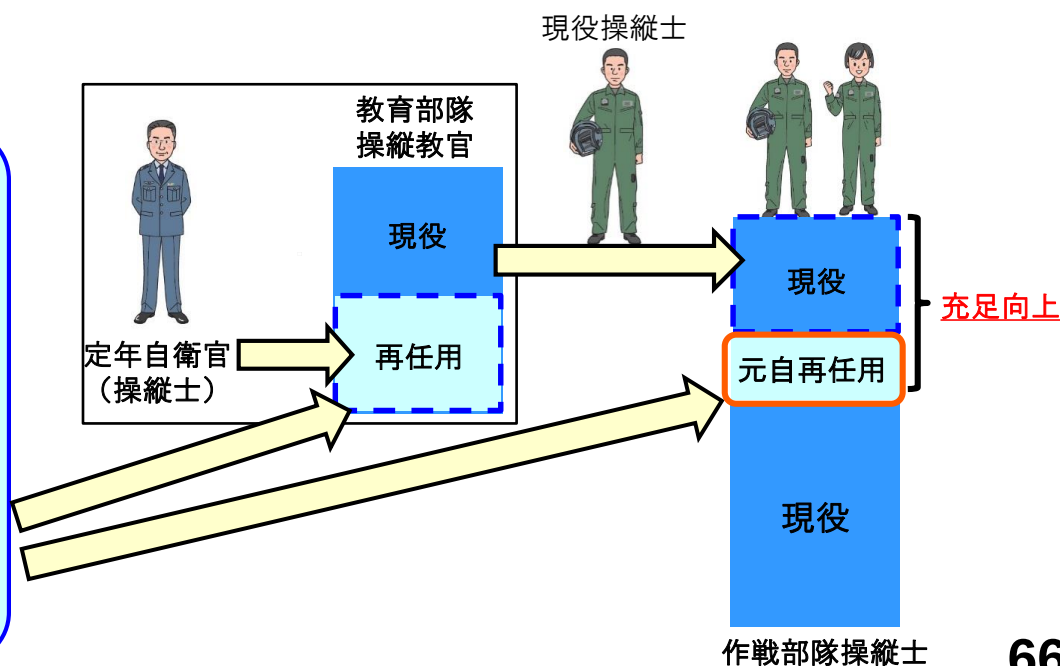
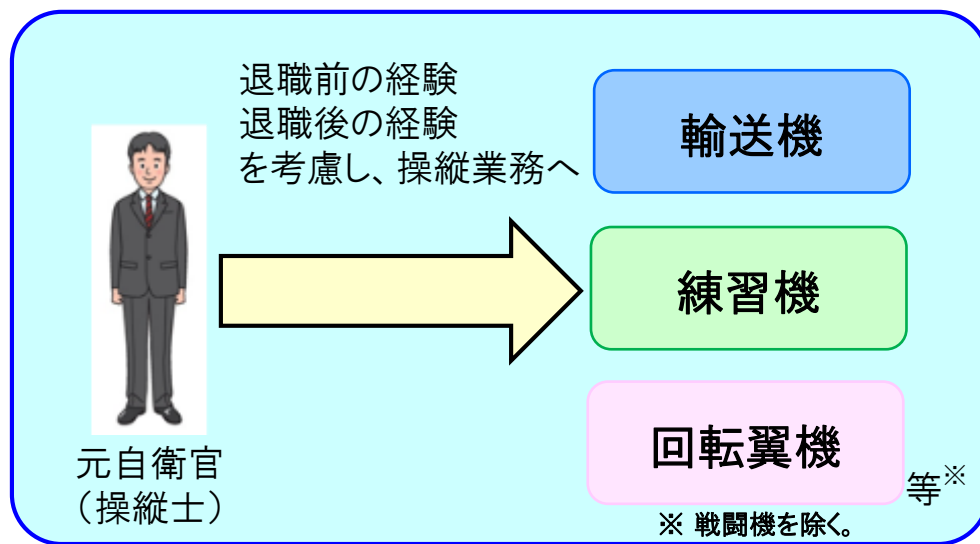
➤ 元自再任用

令和5年度から操縦士(戦闘機を除く。)の再任用開始

定年自衛官(操縦教官)の再任用



定年及び元自衛官(操縦士)の再任用(イメージ)





5 人的基盤の強化(女性活躍の推進)

- 平成27年11月、戦闘機操縦者を含む航空自衛隊の**全ての職種**において、女性自衛官の配置制限を解除
- 本人の意欲、能力、適性に応じた幅広いフィールドに女性自衛官を配置



操縦



宇宙



航空機整備



航空管制



兵器管制



空中輸送



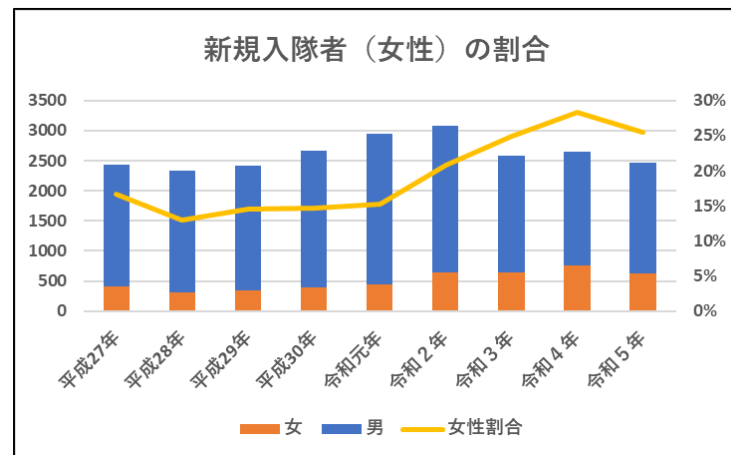
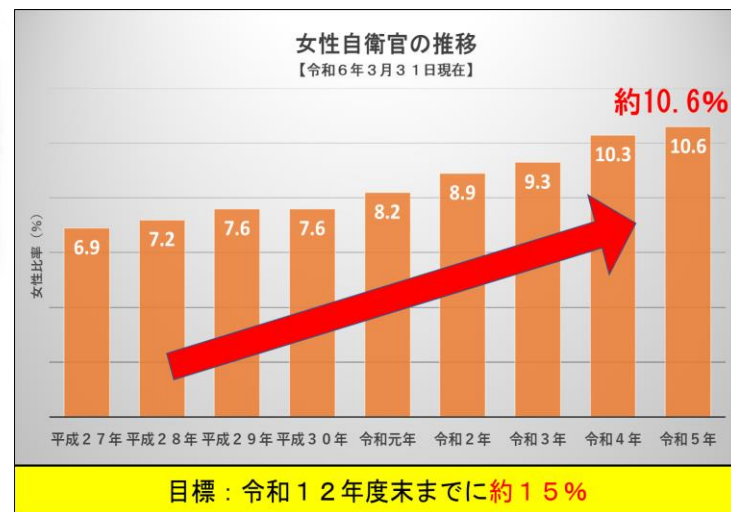
衛生



音楽



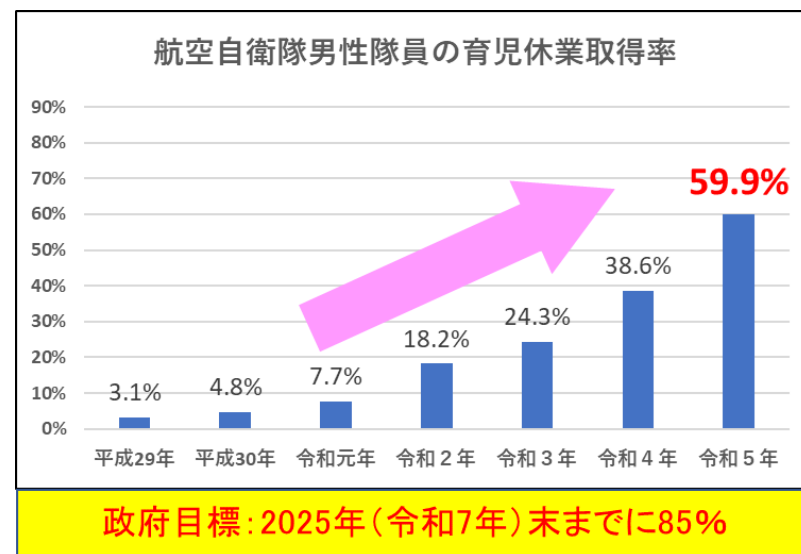
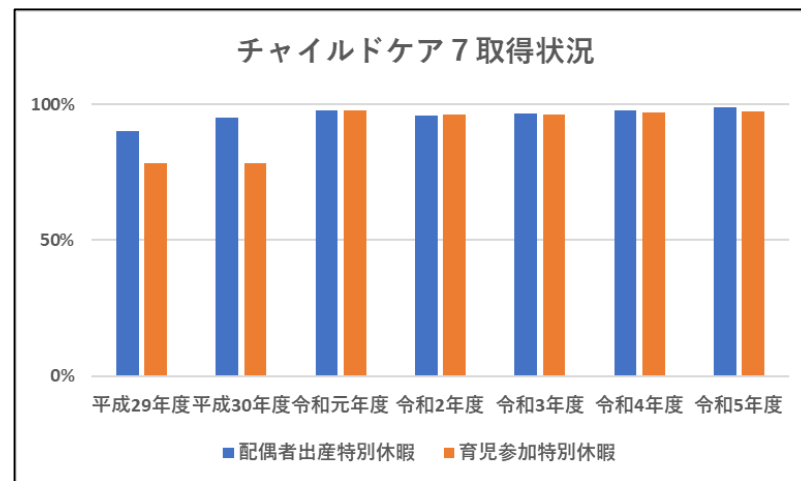
武器弾薬





5 人的基盤の強化(男性隊員の家庭生活への参画推進)

➤ 育児・介護等と両立できるための取組として、男性隊員の家庭生活への参画を積極的に推進





6 ハラスメント防止への取組

➤有識者会議の提言等を真摯に受け止め、**ハラスメントを一切許容しない環境の構築**に向け、積極的な取組を継続

現場部隊における空幕長自身の言葉による直接的なメッセージの発信

「ハラスメントは隊員相互の信頼を失わせ、精強性を揺るがす行為であり、決してあってはならない。」
「大声は、挨拶、号令、緊急時！」(パワハラ防止)
「親しき仲にも節度あり。」(セクハラ防止)



ハラスメント防止月間における空自の取組み (令和7年1月20日～2月21日)

- ・ハラスメント・モデル事例による**知識の定着**
- ・ハラスメント防止に関する宣言書の直筆作成による**意識の啓発・向上**
- ・合言葉は「**しない、させない、見逃さない**」

ハラスメント防止に関する宣言書

私は、ハラスメントが、隊員の尊厳や人格を傷つけ、隊員相互の信頼関係を失墜させ、精強性を揺るがす、決してあってはならない行為であることを認識し、次のことを宣言します。

- 1 ハラスメントの定義を正しく理解します。
- 2 大切な仲間を尊重し、絶対にハラスメントを起こしません。
- 3 ハラスメントを目撃した場合は、決って見逃しません。
- 4 被害に遭った隊員には、しっかり寄り添います。
- 5 ハラスメントを一切許容しない組織環境を構築します。

ハラスメントを一切許容しない環境を構築、定着



7 地域との交流・連携

ブルーインパルス展示飛行



➤ブルーインパルスの展示飛行を通じて、自衛隊に対する信頼感等の醸成及び部外広報に寄与

防災訓練への参加



➤防災訓練への参加を通じて、自治体等との連携体制を構築し、相互の災害対処能力向上に寄与

民間空港を利用した航空自衛隊の訓練



長崎空港へ展開するF-2(KS25)



熊本空港へ展開するF-15(KS25)

➤あらゆる事態において能力を最大限発揮するため、航空自衛隊が多様な空港を使用できるようにしておくことが重要
➤引き続き、関係自治体等に丁寧な説明を行った上で、民間空港を利用した訓練を実施

音楽隊による演奏等



➤防衛省の式典、全国各地での演奏、演奏技術指導により、自衛隊の広報宣伝及び自治体等との良好な関係の構築に寄与



航空自衛隊

Japan Air Self-Defense Force

HP



X



Facebook



Instagram



YouTube

